

「明治四年 武州金沢藩（六浦藩） 監察日記」(2)

小林 紀子

横浜古文書を読む会 下読みの会

本稿は、平成二十八年度から継続している武州金沢藩（六浦藩）の目付が記した公用日記（当館所蔵）の翻刻の続編である¹。七年目を迎える本年度は、明治四年（一八七二）の日記（以下「日記」）を解説・翻刻した。明治四年の日記は一月一日にはじまり十一月十五日で終了しているため²、本稿はその部分の翻刻となる。

「日記」の形態は、これまでの日記と同様に縦帳で、法量は約二十四cm×十七cm、厚さ三・七cmである。日ごとの当番名、すなわち日ごとの「日記」の記載者の署名はないが、末尾に「萩原則嘉、伊藤景員、關根久要、高寫勝親 勤役中」³と記されており、この四名が監察職にあつたことがわかる。

明治四年は、廃藩置県により藩が終焉を迎える年であり、目付（監察）の公用日記も、今回の翻刻部分をもって終了となる。いわば最終巻にあたる今回の「日記」から、特徴的なトピックを二点紹介する。

一つ目は、訓練に関する記事である。慶応四年（明治元、一八六八）二月に西洋式の銃隊訓練を導入、推進し、剣術や槍術とあわせて武備の充実を図っていた⁴。この方針は明治四年においても継続したことが「日記」からわかる。具体的には銃隊の遠足の訓練、喇叭の修行や、剣術修行への許可についてなどの記事がみられる。遠足は、二月

二十七日に江の島まで、三月十二日に「多谷村」⁵までの行程で行われた。「多谷村」はおそらく「田谷村」（現在の横浜市栄区、横浜市の登録文化財である「田谷山瑜伽洞（田谷の洞窟）」で知られる）であろう。江の島も田谷村も、金沢からは直線距離にしておよそ十km強である。また四月七日には「藤沢駅より戸塚駅夫より程ヶ谷駅」⁶廻り罷帰候事⁷。というコースがとられている。金沢出発でこのコースをまわると、地図上の荒い計算でもおよそフルマラソンほどの距離となる。喇叭修行では、藩士の下城達次郎が、「東京」⁸罷出喇叭可致修行候との命を藩より受けた記事がみられる。一方剣術では、藩士今蔵信吾が「未熟」⁹而奉恐入候間此上一際出精¹⁰のため東京での、藩士茂呂錦三郎が「養父茂呂郡造相模国」¹¹剣術為稽古罷越候節私儀も修行旁同道¹²のため相模国での修行を願ひ出ている。月末にはいずれの願ひも了承され、それぞれ東京と相模国へ赴いている。

二つ目としては、やはり廃藩に関する記事をあげておきたい。武州金沢藩では、廃藩置県の詔が発せられた翌日にあたる七月十五日に、東京詰の大参事宇田廉平が詔書を受けた。金沢の藩士たちへの伝達は十七日で、藩主米倉昌言（「知事様」）自身が「御出座」し、「今般自分儀本官ヲ被免候旨被」との「御意」を伝えている。県名は六浦県と

なった¹⁰。九月三日には昌言（従五位様）が九月十日に東京へ出立することが達せられ、出発前日の九日には昌言より藩士たちへ直接「御懇之御意并御酒」が下された¹¹。その際の「御意書」の写しも「日記」に記されており、「永々逢候事も有之間敷」といった藩主と藩士の関係の終焉を感じさせる文言や、藩士への手当向きについて「承知之通不如意之勝手向帰京ニ付而も物入多術計も無之深致心痛候：」など藩の財政難を示す文言が見られる。昌言は翌十日の八つ時（午前二時頃）に、「御玄関前」の左右に居並ぶ藩士たちに見送られて出立し、その日のうちに東京に到着¹²、妻竹子と長男欽若は九月十七日に金沢を出立、十八日に東京に到着した。十月に「今度市ヶ谷新本村谷町御私邸被成御上地牛込御門内元御官邸被成御拝領候事」との記事がみられることから¹³、藩主一家をはじめ市ヶ谷の下屋敷に入り、その後牛込御門内の上屋敷に入ったと考えられる。

昌言の東京移住後、六浦県には新たな県令は派遣されず、大参事川上澂二以下の藩士たちが行政を担った。しかし十一月十四日、群馬県を除く（すでに統廃合が行われていたため）関東と伊豆の府県が国や郡の地域的まとまりにしたがって統合されることとなり、六浦県＝旧六浦藩領の村々は神奈川県、足柄県、栃木県、埼玉県にそれぞれ属することとなった。これをもって、六浦県は廃止となる。慶応四年一月一日より書き継がれてきた目付（監察）の公用日記も、六浦県廃止を綴る十一月十五日をもって終了となった。

目付（監察）の職掌内の記事に限定されるとはいえ、慶応四年から明治四年にいたる公用日記群は、明治初年の大きく変化する時代の中の武州金沢藩の動向を知ることのできる貴重な資料群といえよう。ま

た藩の儀礼や藩祖信仰、藩士の叙任や冠婚葬祭などの情報も豊富で、多角的な検討が可能な資料でもあり、同藩の目付の職務自体を検討する資料としても有効である。これらについては、今後少しずつでも研究を進めていきたいと考えている。

最後に、本資料の解説は、初年度より最終年度となる今年度まで、「横浜古文書を読む会」の有志「下読み会」が行った。当初は対面での輪読を行っていたが、新型コロナウイルスの流行により、最後の三年間は、リモートでの輪読となった。七年間という短くない期間、環境の変化を乗り越え、解説を継続、完結させて下さった会の皆さんに感謝と敬意を表したい。

「日記」の解説はこれで終了となるが、会の活動は継続しており、横浜地域の新たな古文書に取り組んでいる。いずれまた、翻刻を何らかの形で公開できればと考えているので、その際には、またご覧いただき、ご活用いただければ幸いです。

1 平成二十八、二十九年度の二年間で慶応四年の日記を解説、「慶応四年 武州金沢藩目付日記」(1)、(2)として『横浜市歴史博物館 紀要』（以下『紀要』）二二・二三号（二〇一七、一八）に掲載した。続いて平成三十、三十一年度には明治二年の日記を解説、「明治二年 武州金沢藩（六浦藩）目付日記」(1)、(2)として『紀要』二二・二四号（二〇一九、二〇）に掲載した。令和二、三年度には明治三年の日記を解説、「明治三年 武州金沢藩（六浦藩）監察日記」(1)、(2)として『紀要』二五・二六号（二〇二一、二二）に掲

- 載した。また当館では、令和三年（二〇二一）十月二日（土）十一月二十三日（火祝）に企画展「横浜の大名米倉家の幕末・明治」「日記」が伝える武州金沢藩、激動の4年」を開催し、同名称の図録を発行した。併せてご参照いただければ幸いである。
- 2 「日記」〔萩原家文書〕七九五、萩原義則氏寄贈、横浜市歴史博物館所蔵）。
- 3 「日記」裏表紙裏。
- 4 明治三年までの「日記」の翻刻でも、銃隊訓練や剣術、槍術などの稽古についての記事が多く見られる。また武備の充実については、前掲図録『横浜の大名米倉家の幕末・明治「日記」が伝える武州金沢藩、激動の4年』、「明治二年 武州金沢藩（六浦藩）目付日記」(1)の前書にても取り上げた。
- 5 「日記」三月二日の項。
- 6 「日記」四月七日の項。
- 7 「日記」正月十九日の項。
- 8 「日記」正月二十日の項。
- 9 「日記」正月二十九日、晦日の項。なお今蔵については、二月五日の早朝に出立したことが「日記」二月四日の項からわかる。
- 10 「日記」七月十七日の項。
- 11 「日記」九月三日、九日の項。御意書も九月九日の項。
- 12 「日記」九月十日、十二日の項。
- 13 「日記」十月十二日の項。

凡例

- 一 原文の丁移りは「1オ」「1ウ」と表記し、行移りは原文のままとする。ただし一行で収まらない場合は二行とし、行末に「を付す。
- 一 漢字は原則として常用漢字表に従う。表外漢字については、原文の表記に従う。人名・地名などの固有名詞は、可能な限り原文の表記に従う。

- 一 俗字・異体字・略字は正字に、旧字は新字に直して表記する。

- 一 助詞については、「江」は原文の表記に従う。漢文表現に由来する「之」「而」「哉」「歟」「而已」は原文の表記に従う。

- 一 慣用的合字は「メ」以外はひらがなに改める。

- 一 繰り返し符号は、漢字は「々」、ひらがなは「ヽ」、カタカナは「、」を用いる。「く」はそのまま表記する。

- 一 欠字は一字あけとし、平出は原文の表記に従い改行する。

- 一 朱書の文字については本文と異なるフォントを用いて区別する。

- 一 判読不能箇所は、文字数がわかる場合は□で、文字数がわからない場合は「」で示す。判読不能だが推定できる場合は（〜カ）と注記する。

（例）被仰付 □^{（誤カ）}

- 一 誤字は、正しい文字が明らか場合は（ ）で注記し、推定の場合は（〜カ）、推定できない場合は（ママ）と注記する。

- 一 原文の翻刻は「横浜古文書を読む会」会員のうち「下読み会」のメンバー（王子全主、鈴木美奈子、山根美智子、山本昭男、吉川忠克、渡辺春美、割石洋策）が行い、横浜市歴史博物館学芸員の小林紀子が補訂した。

(表紙)

明治四辛未年

日記

自正月

至十二月

監察局

謹奉賀

新正

正月元日

少参事戸田明倫

以下庁掌迄準々

認方同断

(表紙裏)

1才

正月元日 卯 晴

葉紙頁 式百枚

乙

2才

一、御藩中少参事以下之面々一統服紗小袖麻上下

着用四ツ時局々^江相揃夫より並居無程

知事様御留守中^ニ付御名代川上大参事今藏権大参事

御出席年頭之御祝儀今藏権大参事被 謁候事

一、嚮導始兵隊之面々は軍務局^ニ並居前同断今藏

(権脱) 大参事被 謁候

一、従前年頭之御祝儀別段御詰所^江罷出申上候廉は

当年より被 止候事

甲

一、無記事

正月三日 巳 晴風

一、昨日春御祭典

正月二日 辰 晴風

御家廟^江御藩之面々参拝性(姓)名帳直掌より差出候間

不参名前取調参事詰所^江差出ス

1ウ

一、右之面々御使(便)り之節

一、諸局不参書大参事衆^江及進達候事

一、元日諸向四ツ時相揃奏任之面々呈上ヲ以

一、判任従九位迄左之呈上差出ス

2ウ

一、明六日トシタク之延年越^ニ付参事局而已四ツ時ヨリ

正月五日 未 曇折々雨

一、右之面々御使(便)り之節

一、判任従九位迄左之呈上差出ス

段柴田権大属申聞承り置

一、旧臘被 仰出候七夕（節）句并歳末参庁刻限自今四ツ時

揃之旨今蔵権大参事被 仰候段柴田権大属申聞有之

候間其旨局々廻章以相達ス

一、大（太）政官ヨリ御達書壹折今蔵権大参事被成御渡候間

御藩廻章以相達ス

正月六日 申 晴

一、トシタク無記事

正月七日 酉 晴

一、人日御祝儀付左之役々四ツ時参庁御詰所罷出御祝儀
申上候事

3才

医員

3ウ

右之内而老人澤田敬齊出ル

士族之非役

右之内而老人関根半平出ル

上禄卒非役

右之内而老人中川磯七出ル

以上

一、三匆玉和之御筒三挺民政野嶋思磨方相渡ス

一、今日列（例）年之通外飾相引候段宮繕方より申聞承置

正月八日 戌 晴

一、旧臘小峯藤次郎養父甚重左衛門拝領之御紋服私着用
致度願書今日御附札相成候旨織田豊芳より申聞候間
御礼詰所差出ス

4才

正月九日 亥 曇

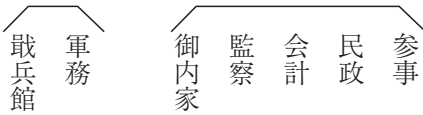
一、無記事

正月十日 子 朝雨昼後晴

一、濱野銀太郎種（腫）物付引込御届申上候段都筑
求ヲ以申聞承置

一、明十一日御嘉列（例）之通御具足御鏡餅被下置候間
御藩之面々一統服紗小袖麻上下着用六ツ半時参庁
可致様今蔵権大参事衆被仰聞候間其旨御藩

右は詰合



右之内老人窪田廣太郎出ル

明允館

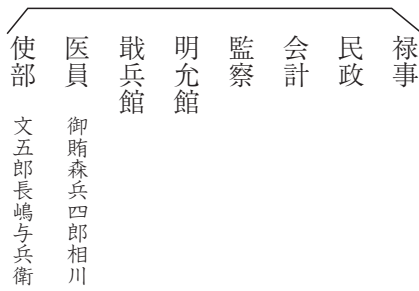
右之内而老人宮川辨治出ル

廻章ヲ以相達ス

正月十一日 丑 晴

一、御藩之面々一統服紗小袖麻上下着用六ツ半時相揃
御書院^江並居右役々左之通り

4ウ



右は御書院一ノ間より二ノ間^江並居

士族ノ非役
上禄ノ卒非役

右は北ノ御廊下^江並居 相川勝右衛門田中元悦

右は上禄卒ノ次^江出ス

5才

右之通り並居御鏡餅差出方使部取扱一統^江行渡候ヲ
見計当役より大参事衆^江相揃候段申上之無程大参事
小参事衆御同列^ニ被出大参事衆より緩々頂戴可致之旨
御挨拶有之其節筆頭明允館助教宮川弁治御嘉

5ウ

例之通り難有仕合之旨御礼申上之嚮導始上(常) 備兵隊
予備郷(嚮) 導始予備兵隊は軍務局^江並居同様頂戴之
同所^江も大参事衆為御挨拶被出候事

一、信玄公 八幡大神 御具足神酒は一統前文並居候
節頂戴致候事

一、大育公御据之霰は権少属より諸芸免許以上上禄之士族迄
前於同所^ニ頂戴之

一、信継大明神昌尹大明神右御両侯御据は一統於同所
頂戴之

右之御神酒并霰御鏡餅共参事詰所より

当役詰取御書院差出一統頂戴畢而軍務局^江当役

持参筆頭者^江其後ハ右局頂戴畢而筆頭者当局^江

持参当局より詰所^江差出ス

右頂戴相济局々^ニ分御詰所^江罷出御礼申上之

一、幸嶋徹造宮尾門三郎小泉四郎御具足御鏡餅初而
頂戴^ニ付別段御詰所^江差出ス

一、大洞定市御祝式後平服御用有之旨今蔵権大参事衆

御達之段詰番柴田権大属被相達候間則当人^江相達候処奉畏
御請申出候間其旨前同人^江申述御祝式後引積(統) 御書院
二ノ間之

御振合^ニて於御詰所^ニ今蔵権大参事衆御書付ヲ以被 仰付

小田原藩森清兵衛

一 娘其方縁組致度旨願 大洞定市

之通被 仰付之

6才

右被 仰付畢而御札御詰所^江差出ス

一、大(太)政官より御触書壹折今藏権大参事衆御渡則廻章ヲ以御藩^江相達ス

一、卒小頭御鏡餅頂戴之御札萩原権大属より申上之

一、相当表并御規則書軍務局^江相廻置候処兵隊一統

及拝見候^ニ付返済可致高木巖方持参請取夫より民政會計局^江相廻置

正月十二日 寅 曇

一、大串新平左之願書及進達候段当人申聞承置

私儀東京表親類共^江無拋用事御座候^ニ付

返往五日立帰御暇被 下置候様此段

可為願之通候

奉願候以上

正月十二日

大串新平

一、長坂小平太左之願書及進達候段当人申聞承置

養祖父半兵衛拝領之御紋服私着用

可為願之通候

仕度此段奉願候以上

正月十二日

長坂小平太

一、東京飛脚之節御藩より無拋包物等差込相願候節

已来左之通り

一軒(件)^ニ付

目方

百目ヲ限り

7才

但シ百目已下たりともかさばり候品は

不相成候事右差出刻限夕七ツ半時

限り刻限後^ニ相成候ハ、不相成候事

右之通り被 仰出候間則廻章ヲ以御藩^江相達ス

一、今般御藩制御变革^ニ付御藩之面々親類書相改度段

伺済^ニ付御藩親類書迅速取調差出可申旨廻章ヲ以

相達ス

一、宮尾門三郎儀拝領御長屋^江早々可引移之処此程

妻不快^ニ付暫時御猶予相願候段藤沢元次郎ヲ以申聞

承置

一、明十三日武相名主年頭為御祝儀罷出候段詰番新倉少属申聞

7ウ

正月十三日 卯 晴

一、大(太)政官より御触書三折今藏権大参事被成御渡候間

則廻章ヲ以御藩^江相達ス

一、武相名主^江 御盃被下有之候得共当局関係無之

正月十四日 辰 晴

一、大洞定市左之届書及進達仕候段当人より申聞承置

小田原藩森清兵衛娘今日引取即日

婚姻相整申候此段御届申上候以上

正月十四日

大洞定市

十、堀井省吾左之届書差出請取置

私厄介兼父庄助儀改名仕候間

壯平

8才

此段御届申上候以上

正月十四日

堀井省吾

一、堀井省吾厄介之実父庄助義壯平と致改名候段省吾より
当役迄申聞有之候間承り置

9才

戦兵館

右老人 右老人 右老人

御内家

非役士族 上禄卒
右老人 右老人

都合廿八度罷出御祝儀申上之候事

正月十五日 巳 晴
一、左之役々服紗小袖麻上下着用四時参庁大参事御詰所_江
罷出上元之御祝儀申上之左之通

一、剣術并銃隊調練稽古発(会脱力)ニ付稽古罷出候面々今九
時頃
より平服ニ而戦兵館_江相揃一同神酒頂戴之大小参事
当役出席之事

一 参事 詰合

一 民政 同

一 会計 同

一 軍務 同

一 戦兵館ニ而 老人

一 監察 詰合

一 明允館ニ而 老人

一 医員ニ而 老人

一 非役士族ニ而 老人

一 非役上禄卒ニ而 老人

一 御内家 詰合

以上

右御祝儀申上候出順左之通

監察

一、参事

民政

会計

軍務

明允館

医員

使部

8ウ

一、野州御分庁詰清水藤蔵御用向ニ付今夕至(到)着致候ニ付
同人より届申聞候

正月十六日 午 晴

一、今日トシタクニ付参局無之

正月十七日 未 晴

9ウ

一、去ル十三日於東京表村山喜八郎妻出産男子出生之旨御届
差出候旨詰番柴田権大属申聞候承り置

一、長坂小平太養祖父半兵衛拝領御紋服用仕度旨願
濟ニ付為御礼大参事御詰所_江差出之

正月十八日 申 晴

一、吉田周悦左之願書差出候旨職頭佐藤小参事被申聞候

承置

私養方從弟島原藩小野田常治妹兩人

私方^江引取厄介仕度此段奉願候以上

正月十八日

吉田周悅

一、大串新平出府願濟^ニ付明朝致出立候^ニ付

若殿様^江為御暇乞御詰所^江差出之

10才

正月十九日 酉 晴

一、高沢弥三郎引込日数御届同勤関根半平を以差出候間
則大参事^江及進達候

私儀昨午十一月中旬より癩症^ニ而引込宮川

辨治^江薬服用仕無油断療養仕候得共

今以耽と不仕近々出勤可仕体(無脱)御座

候猶又^一

引込日数^ニも相成候間此段御届申上候

以上

辛未正月十七日

高沢弥三郎

一、篠原治平引籠(籠)日数御届同勤関根半平を以差出候間

10ウ

大参事^江及進達候

私儀昨午十二月下旬より風邪^ニ而引籠(籠)

沢田敬齊^一

薬服用仕候処今以耽と不仕近々出勤可仕

体無御座候引籠(籠)日数^ニも相成候間此

段^一

御届申上候以上

辛未正月十八日

篠原治平

一、今藏信吾左之願書及進達候旨当人申聞承り置

奉願候覚

私儀劍術準教師被

仰付難有仕合奉存候然ル処未熟^ニ

而奉恐入候間此上一際出精仕度^ニ

奉存候得共爰元^ニ而は何分行届

兼候^ニ付可相成儀^ニ御座候得は

当冬迄東京^江罷出修行仕度奉

願候依之右修行中準教師

御免被成下候様仕度右願之通

被 仰付被下置候は何卒東京於

御邸^ニ如何様之御長屋^ニ而も拝借

仕度此段奉願候以上

未正月十八日

今藏信吾印

大参事

御中

一、明允館稽古癸会^ニ付稽古人一統服紗小袖麻上下着

用九ツ時相揃大小参事当役出席講儀(義)有之右畢而

御神酒一同頂戴之致し候事

11ウ

正月廿日 戌 晴

一、茂呂錦三郎左之願書及進達候旨当人申聞承置

私養父茂呂郡造相模国江劍術

為稽古罷越候節私儀も修行

旁同道罷越申度奉存候其節

奉願候得は御暇被下置候様仕度

此段奉願候以上

正月廿日

茂呂鐺三郎

候間

則小頭林七郎江相達候

一、大串新平用弁済付昨夜東京表より帰着付右御届

予備伍長織田豊より申聞有之承り置

正月廿四日 寅 曇

正月廿一日 亥 晴

12才

一、今日トシタクニ付参局無之

正月廿二日 子 晴

一、宮尾門三郎今日拝領御長屋江引移候旨同勤藤沢

元次郎より申聞有之承置

一、角田市太郎拝領御長屋家根雨漏御修覆願隣家小岑

藤次郎より差出候間則會計小参事戸田吾一方江及進達
候

角田市太郎拝領御長屋家根雨漏致

難儀仕候間何卒御序之節御修復被

仰付被下置候様奉願度段同人留守宅より

申出候間此段私より奉願候以上

辛未正月廿二日

小峯藤次郎

正月廿三日 丑 曇

一、今日白洲相立候ニ付下卒兩人差出候様民政山口権大属申聞

13才

一、清水藤藏当地御用済ニ付明曉致出立候旨本人より
申聞有之候事

出立候事

正月廿五日 卯 曇

一、自今御長屋拝領仕候者江三十日以上営繕より右御長屋引渡

無之候は何々之御都合ニ依而未引渡不申旨営繕より

当人江相達左候得は本人より当局江右之段届可申出と
御取究相成候事

一、織田豊旧臘廿五日萩原唯作跡御長屋拝領被

仰付候処右御長屋御修覆相成候ニ付急速引渡不相成

之旨営繕より右同人江申聞有之ニ付左候得は引越

遅延最早三十日ニも相成候間其段前同人より当局江届

申出候間承り置

正月廿六日 辰 曇

一、今日トシタクニ付出局無之

12ウ

13ウ

正月廿七日 巳 曇

一、濱野長太郎左之願書及進達候段同役

大嶋源三郎より申聞承置

私儀当月上旬より腫物ニ付

田中元悦薬服用仕追々快方

罷成候得共見舞遠ニ付折々

医者通可為勝手次第候
罷越療治請申度可相成御座候ハ、

此段奉願候以上

正月廿七日

濱野銀太郎

右之願書直様御附札ニ相成候段前同人是又申聞

承置

一、大(太)政官より御達書写壱折今藏権大参事殿

被成御渡候間則廻章以御藩江相達ス

正月廿八日 午 曇

一、野本権蔵引込日数届同役手塚貞蔵ヲ以差出候間

則大参事衆江及進達候

私儀去午歳九月下旬より風邪ニ而

引込宮川辨治薬服用仕候処

○無油断療養

兎角同篇ニ付田中玄悦江転薬○仕

候得共今以睨と不仕近々出勤可仕

体無御座猶亦引込日数ニも相成候間

此段御届申上候以上

正月廿八日

野本権蔵

六浦三分村名主

一 役見習被

相川権平

仰付之

右之通被 仰付候段詰番増田大属申聞有之右取扱方

民政ニ而相济当局関係無之

15才

正月廿九日 未 晴

一、茂呂錦三郎相州御支配所江劍術為修行罷越度段願書

去ル廿日差出候処今日御附札济相成候旨当人より申聞有之

承り置

今藏信吾

右御用之儀有之間明晦日四時

平服ニ而参庁有之候様可被相達候

正月廿九日

右御書付今藏権大参事被成御渡候旨詰番柴田権大属

相達候間則当人江相達候処奉畏候旨御請申上候間其段

前同人江申述之

一、来ル二月分家録(禄)官給共明晦日御渡相成候間一同四時

相揃候様會計中沢権大属申聞候間則御藩中江

以廻章相達候

15ウ

14ウ

正月晦日 申 晴

權大參事^江及御届候

一、大(太) 政官より之御布告書壹折今藏權大參事被成御渡

生国三河 小林次郎藏

候間則以廻章ヲ御藩中^江相違候

当未廿九才

一、今藏信吾昨日平服御用御達ニ付罷出候間其旨詰番

増田大属^江申述置御書院ニ之間之振合ニ而於詰所ニ

今藏權大參事以御書付被仰渡左之通り

一 名主役見習被 善提村 山口竹三郎

16才

其方儀当冬迄東京^江

罷出劍術修行仕度右

17才 無之事

修行中準教師

一 御免被成下候様且於彼 今藏信吾

地ニ御長屋拜借仕度旨

願之通被 仰付之

一、坂田胖往返七日立帰り御暇願濟ニ付今夕東京より帰着 致候旨当人より届申出候

右畢而御礼申上之前御同人被謁之候

一、一昨朔日於東京左之通被 仰付候旨詰番參事方申聞

一、来ル二月分御定用金壹朱ト百文監察方紙品料

有之承置

錢五百文蠟燭代下卒小頭渡右受取申候事

一 被 參事史生二等附屬

一 海老原廉太郎

二月朔日 酉 晴

一 仰付之

一、今日トシタクニ付參局無之事

16ウ

一、明二日下録(緑) 卒出代期月ニ付布川又藏義首尾能永之御暇

被下置候様小頭林七郎を以過日申出候ニ付任其意願之通永之

御暇被下置旨申渡候

一 使部被 仰付之 須藤又作

17ウ

二月二日 戌 晴

一 使部被成 櫻井斧太郎

一、布川又藏代り小林次郎藏と申者御召抱相成候ニ付其段今藏

御免候

二月四日 子 曇

一、佐藤忠藏方左之願書被差出候旨被申聞候間承置

壬生藩御支配所下総国結城郡今宿村

医師佐藤謙齊弟結城頭藏儀私

由緒御座候者ニ付引取厄介ニ仕度此段

奉願候以上

辛未二月四日

佐藤忠藏

18才

一、今藏信吾為劍術修行と明曉東京江致出立候ニ付及御届ニ候旨同勤濱野八十人より申聞有之承り置

一、今藏信吾出府修行中丈準教師 御免と申事ニ付

出入御届等之節は準教師之面々ニ而都而取扱候事

一、太政官より御達之御書付老折今藏権大参事被成御渡候間

則廻章を以御藩中江相達候

二月五日 丑 晴

一、濱野長太郎腫物快方ニ付明六日より出勤致候旨同勤都筑

求より申聞有之承置

二月六日 寅 晴

18ウ

一、今日トシタクニ付参局無之
一、明七日釈奠ニ付明允館聖像江参拝致候様佐藤忠藏方被申聞

候事

去ル三日附落

二月七日 卯 風雨 昼後より快晴

一、金子恆五郎左之願書差出候旨同人より直ニ申聞有之承置

私拝領御長屋裏之方下屋所々雨漏

并同所根太落難儀仕候間何卒御序

之節御修復被 仰付被下置候様仕度

此段奉願候以上

未二月三日

金子恆五郎印

19才

一、左之通於御詰所今藏権大参事以御書付ヲ被仰渡候尤
当役一切関係無之候

一名主役被

二宮村

仰付之

原彌市郎

一、坂田胖左之願書差出候旨御家令山口喜平治より申聞有之

承置

私妻儀懐胎罷在候処時候相障候ニ付沢田

敬齋薬服用仕候得共兎角同篇ニ付田中

玄悦江転薬無油断療養仕候処其後持

病之積(癩)気差発時々差込之気有之難見

放容体之旨玄悦申聞候趣六浦表親類共

より申越候ニ付御人少之御中奉恐入候得共

往復七日立帰御暇願之通被

仰付難有迅速帰藩服薬等致遣候得共今

以聡と不仕且亦私儀も足痛罷在出立仕兼候

間可相成儀御座候は何卒此上七日日延被

19ウ

仰付被下置候様仕度此段奉願候以上

未二月七日 坂田 胖

一、今日積奠_ニ付有志之輩明允館 聖廟象(像)_江 参礼致尤麻上下着用之事

二月八日 辰 晴

一、記事無之

20才

二月九日 巳 晴

一、明十月初午_ニ付稻荷明神御祭礼依而伺之上如恒例之取計候旨管繕高沢弥十郎より申聞有之承り置

一、堀井省吾左之願書差出候旨御家令山口喜平治より申聞有之承り置

私拝領御長屋東北之方_江 自分入用ヲ以

二月十九日御附札 沓間四方庇差出申度尤御用之節は

可為願之通候 元形_ニ仕差上可申候此段奉願候以上

未二月九日 堀井省吾

一、明十月初午_ニ付 稻荷大明神御祭礼依之諸局トシタク之旨今藏権大参事被仰聞候間其段御藩中_江 以廻状

相達候事

二月十日 午 晴

一、今日トシタク_ニ付出局無之

一、初午_ニ付両所 稻荷大明神御祭礼之处当局

一切取扱無之事

二月十一日 未 曇

一、今日トシタク_ニ付出局無之

二月十二日 申 晴

一、記事無之

21才

二月十三日 酉 晴

一、野本束左之御届書差出候旨同勤都筑求より申聞有之承り置

大坂 下大和橋 医師

醫師

河合長庵

養母方祖母 妻

右養母方祖母儀久々病氣之处養生不相叶

去月九日卯之上尅(刻)死去仕候段唯今告越申候」

依之定式之忌服左之通

忌 二十日 正月九日より

同月廿八日迄

服 九十日 正月九日より

四月九日迄

21ウ

右之通御座候処忌日数承知仕候ニ付今一日
遠慮仕候服穢之儀は残日数受申候此段
御届申上候以上

二月十三日 野本 束

但右服忌御届書案当御藩ニは先多分相見不申候得共昨明治三庚午年三月
二日池田徹之丞様被成御死去候節 知事様忌服御届弁官_江被成御差出候節
之認振右ヲ照準イタシ候趣司令高木巖申聞之候自來心得之為ニ記置

二月十四日 戌 晴

一、坂田胖追願日数昨十三日迄ニ付明十五日東京_江致出立候旨
当人より届申聞候承り置

一、藤沢元次郎左之御届書差出候旨当人より申聞有之承り置

私妻儀東京親類共_江無拋用事御座

候ニ付昨十三日差遣申候此段御届申

上候以上

二月十四日 藤沢元次郎

二月十五日 亥 晴

一、篠原治平左之願書同勤関根半平ヲ以差出候間則今藏

権大参事_江及進達候事

私儀去午十二月下旬より風邪ニ付引籠(籠)

澤田_江

敬齊薬服用仕候処追々快方相成候得

共病後之儀ニ付月代刺(刺)候得共近所歩

行_江

可為願之通候

試候上出勤仕度此段奉願候以上

二月廿七日御附札
二月十五日 篠原治平

22ウ

一、茂呂郡造同鑑三郎森川才藏兼而願濟ニ付劍術修行
且取立として相模国_江明後十七日致出立候旨何れも
届申出候承置

二月十六日 子 晴

一、今日トシタクニ付出局無之

一、茂呂郡造同鑑三郎森川才藏願濟ニ付明朝相模

国_江致出立候ニ付為御暇乞参事詰所_江可罷出之処

今日トシタクニ付大参事御詰無之依而御役宅皆(廻力)勤

ニ而_江

相濟候事

一、川上大参事戸田小参事東京御用濟ニ付今夕

帰着被致候事

23才

二月十七日 丑 曇

(以下、貼紙)

一、高沢弥三郎引込日数御届書同勤ヲ以差出候間則大参事_江及進達候

私儀昨十一月中旬より痲症ニ而引込宮川弁治薬服用仕

無油断療養仕候得共今以駁と不仕近々出勤可仕体

無御座候猶又引込日数ニも相成候間此段御届申上候以上

22才

二月十七日 高澤弥三郎

(以上)

一、新倉禄三郎左之御届書差出候ニ付及進達候旨宮川弁治より
申聞有之承り置

忍藩

実方従弟

佐藤利右衛門

右利右衛門儀久々病氣之処養生不相叶

去月廿七日申之上尅(刻)死去仕候段唯今

告越

申候依之養子之訳ヲ以半減之忌服受可

申之処日数相立候ニ付今一日遠慮仕候

此段御届申上候以上

二月十七日

新倉禄三郎

23ウ

一、濱野八十人宅江男客老人逗留有之候旨届申聞有之候事

一、角田市太郎宅江親類之者男女三人逗留有之候旨市太郎

留守中ニ付同人母より届有之承り置

二月十八日 寅 曇

一、篠原治平明十九日ヨリ出勤致度旨引込日数ニも相成

候事故出勤伺書同勤関根半平ヲ以差出候間則

今蔵権大参事江及進達候処勝手次第可致出勤

之旨直ニ御差図有之候間其段関根半平江相達候事

私儀風邪病氣快方罷成候ニ付出勤仕度

奉存候引込日数ニも相成候間此段奉伺

24才

候以上

二月十八日

篠原治平

一、角田市太郎於大学南校ニ貢進生勤中散髪罷成度
旨東京御官邸江相願候処願之通全洋学修行中丈

散髪御聞届相成候旨為心得川上大参事被仰聞候事

一、篠原治平明十九日出勤いたし候旨関根半平を以申出

候間則今蔵(権脱)大参事江及御届候事

二月十九日 卯 晴

一、去ル十四日於東京ニ被 仰付左之通

二月十四日於東京ニ

宇田廉平隣御長屋

五間被下之続式間半は

一 御貸被下候是迄之御 河田武平

長屋就御用ニ可差上

候

元御物見三間半六浦

一 表江引移候迄仮御長屋 村山喜八郎

として被下之是迄之御

長屋就御用可差上候

25才

一 家内人数多ニ付隣御長屋 關口 董

式間当分御貸被下候

關口董南隣御長屋

一 式間半被下之是迄之

御長屋就御用_ニ可差

上候

佐伯 讓

御貸被下候

右之通り於御詰所_ニ川上大參事御書付を以被仰渡

候事_」

二月廿日 辰 晴

栗原峻造北隣御長屋

一 二間半被下之是迄之御

長屋就御用可差上候

久保幸次郎

一、左之通り於御詰所今藏權大參事以御書付被仰渡候由

詰番増田大屬申聞有之当局一切關係無之事

御藩内外治療致出精

昨年来

御内家御療用格列入精

相勤且御支配所窮民

一 療治施薬引続差出

田中玄悦

業体厚勉勵之段被成

御感喜候依之御紋附

御羽織被下之

二月廿一日 巳 晴

一、今日トシタク_ニ付參局無之事

一、山口喜平治宅_江親類女客壱人逗留之旨届有之承り置

二月廿二日 午 曇

27才

26才

一 佐伯讓跡御長屋式間

今藏信吾

一、新倉祿三郎明廿三日御用召御剪紙壱折下城達次郎明廿三日

平服御用御達御書付今藏權大參事被成御渡候旨詰番

25ウ

一 須藤又作隣御長屋三間

被下之是迄之御長屋就

御用可差上候

宮本大次郎

26ウ

一 元御物見隣御長屋式

間被下之是迄之御長屋

就御用可差上候

海老原廉太郎

一 土手通元小安宮渡跡

御長屋式間被下之是迄

之御長屋就御用可差

上候

櫻井斧太郎

増田大属相達候間則当人^江相達候処奉畏新倉禄三郎
儀は為御請大参事御詰所^江差出之下城達次郎義は御請
役方迄申聞候間其段増田大属^江申述置

御用之儀有之間明廿三日四時参庁可
有之候以上

二月廿二日 今藏良治

川上澂二

新倉禄三郎殿

下城達次郎

27ウ

右御用之儀有之間明廿三日四時平服^三而

参庁有之候様可被相達候

二月廿二日

二月廿三日 卍 未 晴

一、新倉禄三郎下城達次郎御用^二付罷出候旨申聞有之候間
其段詰番新倉少属^江申述無程御書院於^一之間^三
今藏権大参事以御書付ヲ被仰渡大小属侍座当役

出席

任会計史生東京^江 新倉禄三郎

一、当年中可致勤番候

一、東京^江罷出喇叭 下城達次郎

可致修行候

28才

右畢而為御請御礼御詰所^江差出之

一、佐藤謙司統柄之為御礼御詰所^江差出候何れも

若殿様^江も御礼申上之候

一、吉田周悦儀左之願書差出旨職頭佐藤少参事被申

聞候承り置

私厄介之女御支配所社家分村百姓

平松升吉^江縁組仕度此段奉願候以上

二月廿三日 吉田周悦

28ウ

一、野本権蔵宅^江男客老人逗留之旨届有之承り置

二月廿四日 兼 申 雨

一、川上澂二殿昨廿三日乳母暇遣シ相下ケ候旨案内有之候事

一、茂呂郡造同鑑三郎森川才蔵去ル十七日劍術為

修行取立致出立候処無滞今夕帰着いたし候^二付当局

^江届申出候

二月廿五日 卍 西 晴

29才

一、茂呂郡造同鑑三郎森川才蔵昨夕相州より帰着^二付

為御届御詰所^江差出之

但右三人之者一昨廿三日迄^二罷帰り可申之処何れも

足痛^一

^二付一日延着之旨依之一泊致候宿より私方^江無相違

御宿仕候旨^一

之念書受取参り当局^江差出シ候事

一、大(太) 政官より之御布告書写壹折今藏権大参事被成御渡候間則以廻章
御藩中^江相達候

二月廿六日 戌 蕪 風雨

一、今日トシタク^ニ付出局無之事

一、戸田少参事左之御届書被差出候旨佐藤少参事被申

聞候

私妻儀今申ノ中尅(刻) 出産女子出生仕候

依之来二(三) 月二日迄産穢罷成申候此段

御届申上候以上

二月廿六日 戸田吾一

29ウ

二月廿七日 戌 亥 晴

一、今日銃隊遠足調練定日^ニ付何れも江之嶋迄罷越候由

右^ニ付高嶋省三郎今日罷出候事

一、宮尾門三郎左之御届書差出候旨同勤前田弥六より

申聞有之承り置

私妻儀東京親類共迄無拋用事御座候

^ニ付明廿八日差遣候間悴恆吉儀も同道

為仕候此段御届申上候以上

二月廿七日 宮尾門三郎

二月廿五日於東京

常備兵隊被

一 仰付之喇叭修行可 鈴木瑞穂

30才

致候

六浦表^江引越予備兵

一 隊被 久保幸次郎

仰付之支度次第可致

出立候

右之通於東京^ニ被 仰付之趣詰番増田大属申聞之候

30ウ 一、篠原治平病氣追々快方^ニ付歩行願書去ル十五日差出候^ニ付
即刻

即刻

東京^江被仰上今日願之通御附札済相成候^ニ付同人御礼申上

候旨

詰番増田大属より申聞有之承り置

一、柴田相造腰痛其上腫物^ニ付今日引込御届申上候旨

是又詰番増田茂申聞之候承り置

二月廿八日 菘 子 曇

私住居罷在候

御家廟勝手之方根太落難儀仕候間何

卒御序之節御修復被

仰付候様并下流^シ無之候^ニ付是又御出来

被

成下候様仕度此段奉願候以上

二月廿八日 茂呂郡造印

31才

一、右之願書同勤を以て進達候旨当人より申聞有之承り置

一、野本権藏引込日数御届書同勤藪田定之丞を以差
出候間則今藏権大参事^江及進達候

私儀去ル午九月下旬より風邪^ニ而引込宮川

辨治^一

薬服用仕候得共兎角同篇^ニ付田中玄悦^江

転業無油断療養仕候処今以耽と不仕近々

出勤可仕体無御座候猶又引込日数^ニも相

成候間此段御届申上候以上

二月廿八日

野本権藏

31ウ

一、織田豊今日拝領御長屋^江引移候旨石川清より申聞有之

承り置

二月廿九日 卅 丑 曇

一 当分学校男子之分

篠原多一

生徒手本相認可申候

右御書付今藏権大参事より詰番新倉少属^江被成

御渡同人より多一^江相達候処御請御礼申上之候

一、千葉喜太郎相川庄九郎唯今御用之旨今藏権大参事

被仰聞候旨詰番新倉少属相達候間則当人共^江相達候

無程於御詰所^ニ今藏権大参事以御書付被仰渡候左之

通り

32才

一 於学校幼稚之者手

跡可致世話候

千葉喜太郎

相川庄九郎

右畢而御請御礼として御詰所^江差出之

一 於学校幼稚之者手 良造倅

跡可致世話候 長谷川武造

右今藏権大参事より御書付佐藤少参事^江御渡於学校^ニ

佐藤少参事当人^江被相達候事

一、戸田少参事今日産穢 御免被 仰出候旨佐藤忠藏方

被申聞候承り置

一、今朝東京^江飛脚被差立為宰領と加藤健次郎罷越候事

32ウ

一、明晦日四半時来三月分家録(禄)官禄共御渡相成候旨會計

中沢権大属相達候間則御藩中^江以廻章相達候事

二月晦日 卅 寅 晴

名主役見習 寺山村

一 被

久保田治三郎

仰付之

右於御詰所^ニ今藏権大参事以御書付被仰渡候よし

詰番増田大属申聞候当局関係無之事

一、堀井省吾より左之御届書差出候旨申聞有之承り置

御届書左之

坂田胖妻儀昨夜亥ノ中尅(刻)出産女子出

生^一

仕候依之来月五日迄産穢罷成申候右

同人御供留守中^ニ付此段私より御届申上

候以上

二月晦日 堀井省吾

一、自今御用召_二而被 仰付候分大少参事_江御礼廻
勤可有之候年始暑寒廻勤は従前之通且少々
之間之旅行等_二付送別歛見舞杯無用可致候
事右之通今蔵権大参事被仰聞候間此旨以廻章
御藩中_江相達候事

33ウ 一、角田市太郎留主宅_江親類之客男女三人逗留之旨届
有之承り置

三月朔日 兼 卯 晴

一、今日トシタク_二付参局無之

三月二日 卯 辰 晴

一、記事無之

三月三日 辰 巳 晴

一、左之役々服紗小袖麻上下着用四時参庁御詰所_江
罷出上巳之御祝儀申上之
若殿様_江も申上之川上大参事被謁之候事

34才

一 参事	詰合
一 民政	同
一 會計	同
一 軍務	右人
戦兵館 _二 而	

一 監察 詰合

一 明允館_二而 右人

一 医員_二而 右人

一 使部 詰合

一 非役士族_二而 右人

一 非役上禄卒_二而 右人

一 御内家 詰合

以上

34ウ

右御祝儀申上候節出順左之通り

参事	軍務 之内	明允館	医員
民政	戦兵館	右右人	右右人
會計	右右人		

監察	使部	非役士族	非役上禄卒	御内家
----	----	------	-------	-----

都合八度_二罷出御祝儀申上之候事

一、吉田周悦明四日平服用御達御書付川上大参事

被成御渡候旨詰番増田大属相達候間則周悦_江相達候処

奉畏候旨御請申上候間其段詰番参事_江申述置

35才

吉田周悦

右御用之儀有之間明四日四時平服_二而

参庁有之候様可被相達候

三月三日

一、藤澤元次郎宮尾門三郎左之御届書差出候_ニ付及進達候旨同勤前田弥六より申聞有之承り置

私妻儀東京親類共_江無_レ扱用事有之候_ニ付

先達差遣候処用弁相濟昨夕帰着仕候

此段御届申上候以上

三月三日 藤澤元次郎

私悴恆吉儀妻同道_ニ而去月廿八日東京親

類共_江差遣候処用弁相濟昨夕帰着

仕候此段御届申上候以上

三月三日 宮尾門三郎

三月四日 卍 午 曇

一、明五日

峻章院様御祭_ニ付御藩之面々服紗小袖麻上下着用

朝五時より四時迄_ニ 御家廟_江参拜可致且御用引

不参等之向は其旨当局_江相断候様御藩中_江以廻章相達

候事

36才 一、吉田周悦昨日平服御用御達_ニ付罷出候旨申聞候間其段

詰番増田大属_江申述置

一、宮川弁治唯今平服御用之旨川上大参事被仰聞候間_ニ付

詰番増田大属申聞候間則当人_江相達候処御請申上候

間前同人_江申述置無程御書院於_ニ之間川上大参事

以御書付被仰渡大少属侍座当役出席

宣教使相勤候_ニ付

一 大属準席被 宮川辨治
仰付之

其方厄介従弟女

社家分村百姓平松

一 升吉_江縁組為致度 吉田周悦

旨願之通被

仰付之

右畢而為御礼大参事御詰所_江差出之

一、大洞定市左之願書差出シ候旨当人より申聞有之承置

私儀小田原藩親類共迄無_レ扱用事

御座候_ニ付往返七日立帰御暇被下置

候様仕度此段奉願候以上

三月四日 大洞定市

37才 一、宮川弁治新倉祿三郎下城達次郎明曉東京_江出立

いたし候_ニ付何れも職頭より大参事御詰所_江御届申上之

一、右同人明朝東京_江出立之旨当局_江届申出ル承り置

三月五日 卍 未 雨

一、御藩之面々服紗小袖麻上下着用

峻章院様御靈殿_江参拜致候事

一、茂呂郡造御家廟拜礼姓名帳差出候間不参取調候上

参事詰番_江差出候事

一、中沢八十次宅^江親類男客^江人当分逗留之旨届有之
承り置

37ウ

三月六日 兼 申 雨

一、今日トシタク^ニ付参局無之

三月七日 申 酉 晴

一、各地方^江公私共用之書状差出シ候ハ、以来 朝廷^ニ而
御世話被為在候^ニ付差出方心得詳細規則書^江駆通司
より達相成依之右規則書大参事被成御渡候間御藩中^江
以廻章相達候事

三月八日 申 戌 雨

一、山田功差出候御届書則及進達候旨佐藤少参事

38才

被申聞候承り置

私帰参被 仰付候前親類共^江預置候悴并

妻儀昨日私方^江引取申候此段御届申上候

以上

三月八日 山田 功

三月九日 戌 亥 曇

一、角田市太郎留守宅より隣家小岑藤次郎相頼左之願
書藤次郎より差出候旨申聞有之承り置

角田市太郎拝領御長屋裏之方椽(縁)側朽

損

38ウ

并雪隠家根雨漏仕難儀仕候間何卒御
序之節御修復被 仰付被下置候様奉願
度段同人留主宅より申出候間此段私より奉
願
候以上

三月九日 小峯藤次郎

一、今般三ツ帯二ツ帯雷銃御藩内^江御払且拝借被
仰付候間拝借并御払等申請度面々は当局^江願出可申
候尤右御筒御払頂戴之上若不用^ニ相成其節
他所^江売払度節は其旨当局^江届之上相払可申様
戸田少参事被相達候間其段以廻章御藩中^江相達
候

御払直段左之通

金壹両 三ツ帯雷銃 金壹両壹分

二ツ帯雷銃

金三分三朱 和制(製)二ツ帯雷銃

39才

一、御藩人別送籍之儀自今監察^ニ而取扱可申様川上大参事
被仰聞候事

三月十日 亥 子 曇

一、沢田敬齋願書差出候旨当人ヨリ申聞
有之候

私儀東京親類共迄無扱用事御座候^ニ付往返

五日立帰御暇被下置候様仕度此段奉願候以上

可為願之通候

三月十日

沢田敬斎

三月廿三日御附札濟

- 一、吉田周悦厄介之從弟女社家分村百姓平松舛吉江先般縁組願濟之上為引移候ニ付送籍江御調印相願度旨送書差出候間則大参事江差出御藩印調印相濟当局ニ而割印いたし同人江相渡候事右ニ付送籍請書相川藤平より吉田周説江差出候旨同人より申聞有之

三月十一日 廿 丑 晴

- 一、今日トシタクニ付参局無之

- 一、記事無之

三月十二日 廿 寅 晴

39ウ

- 一、今朝 御奥様御忍ニ而池子村辺江被為人候由詰番参事より為心得案内有之候事

- 一、今日遠足調練多谷村辺迄罷越候由司令高木巖より申聞有之候事

- 一、同断ニ付下祿卒ニ而林七郎加藤健次郎罷出候事

三月十三日 兼 卯 曇

- 一、野嶋思磨山口篤御用向ニ付相州御支配所江明曉出立いたし候旨届申出候事依之下祿卒志人差出呉候様同人より申聞有之間則小頭林七郎江相達候

40才

- 一、下卒大井宗十郎野嶋思磨山口篤附屬として明朝出立候ニ付

小頭より右届申出ル

三月十四日 卯 巳(辰) 晴

- 一、野嶋思磨山口篤今朝相州江致出立候事

三月十五日 辰(巳) 晴

- 一、無記事

三月十六日 巳 午 晴

- 一、今日トシタク参局無之

- 一、大洞定市去ル四日差出候願書願濟ニ相成候ニ付

40ウ

- 明朝出立致度右ニ付御暇乞申上度旨申聞候間御詰所江可差出之処トシタクニ付御月番大参事御宅江差出シ候事

三月十七日 午 未 晴

- 一、高澤弥三郎引込日数御届書同勤ヲ以差出候間則

- 大参事江及進達候

私儀昨十一月中旬より痲症ニ而引込

宮川弁治薬服用仕無油断療養

- 仕候得共今以耽と不仕近々出勤可仕体無御座候猶又引込日数ニも相成候間此段御届申上候以上

三月十七日

高沢弥三郎

三月十八日 兼 申 雨

- 一、下卒^江是迄白州同心其外出役之節御印羽織袴等拝借被 仰付候処右は自今被 止已来同 心其外出役等之節は拝借願出候ハ、戎服御貸被 下候尤自分服相用候儀ハ勝手次第之旨戸田小参事 被申聞候間其旨下卒小頭林七郎^江相達ス

一、明廿日
三月十九日 申 酉 晴

- 昌壽院様御祭^ニ付御藩之面々服紗小袖麻上下着用 朝五ツ時より四ツ時迄^ニ御家廟^江参拜可致且御用引 不参之向は当局^江相断候様御藩中^江以廻章 相達候事

三月廿日 申 戌 曇

- 一、御藩之面々服紗小袖麻上下着用
昌壽院様御靈殿^江参拜致候事
- 一、茂呂郡造より御家廟拜礼姓名帳差出候間不参取調候上 参事詰番^江差出ス
- 一、野嶋思磨山口篤相州御用済^ニ付昨夕帰着之旨 詰番増田大属申聞有之候事

- 一、下卒大井惣十郎相州御用済^ニ付昨夕帰着致シ候旨申出ル
- 一、久保幸次郎家族召連東京表より新太郎船^江乗り昨夕

当(到)着致シ候旨隊長高木巖申聞有之候事

但シ御届御機嫌伺之儀

- 知事様御朝集中^ニ付隊長より御届而已^ニて相済候事
- 一、大(太)政官より御布令壱折川上大参事殿被成御渡 候間則以廻章御藩^江相達ス

三月廿一日 亥 晴

- 一、今日トシタク^ニ付無記事

三月廿二日 子 晴

- 一、茂呂郡造左之願書差出候旨当人申聞有之承り置
私儀東京親類共^江無抛用向御座候^ニ付罷越 申度依之往返七日立帰御暇被下置候様 仕度此段奉願候以上

三月廿二日 茂呂郡造

- 一、中井新三郎左之願書差出候旨野嶋権大属より 申聞有之承り置

- 私儀東京表親類共^江無抛用向
御座候^ニ付罷越申度依之往返
七日立帰御暇被下置候様仕度此段 奉願候以上

三月廿二日 中井新三郎

- 一、久保幸次郎只今平服御用之旨川上大参事被仰聞候^ニ付 詰番増田大属より申聞候間則当人^江相達候処御請

43才

申上候間前同人^江申述置無程於御詰所川上大參事
以御書付被仰渡候事

織田豊跡御長屋

一 式間被下之外沓間は 久保幸次郎

御貸被下之

右畢而御札御詰所^江差出ス

一、沢田敬齋出府願御附札^江付明朝致出立候依之職頭より大參事^江御届申上
候旨申聞有之承り置

三月廿三日 丑 曇

一、左之御書付川上大參事被成御渡候間則以廻章御藩

中^江相達之

43ウ

監察^江

毎年三月十一日

神武天皇御祭典有之候^江付海内一同遵行

被

仰出候依之

三侯大明神御社地^江遙拜所御取建相成

候間毎歳同日御藩士族卒^江至迄礼服

着用罷出順次嚴重拜礼可致事

但当年之儀は来ル四月朔日拜礼可致候尤

巳ノ尅(刻)御社地溜所^江相揃可申事

拝辞

掛^{カケ} 麻^マ 久毛^{クモ} 畏^{カシコ} 支^キ

44才

神^ジ武^ム天^{テン}皇^{ワウ}乃^ノ御^ミ前^{マエ}乎^ハ遙^{ハルカ}
尔^ニ拜^{フカ}美^ミ
奉^{タテマツル}留^ル

右之趣可被相達候

辛未三月

右^江付服穢之ものハ不及罷出^江前日其旨名前書を以当局^江

相断可申様是又致廻達候事

一、前同断^江付下禄卒も拜礼有之候間其旨小頭林七郎^江相達

候事尤卒之者着服は^マ服之事

一、大洞定市去ル十七日小田原^江罷越候処用弁^江而今夕帰着

^江付届申出ル承り置

三月廿四日 寅 曇

44ウ

一、大洞定市昨夕小田原より帰着^江付為御届大參事御詰所^江
差出ス

一、右同人宅^江親類女泊客老人有之候旨届申聞有之承り置

一、柴田権大属病氣快方^江付明廿五日より出勤之旨詰番參事

申聞候承置

三月廿五日 卯 雨

一、宮尾門三郎左之御届書及進達候旨当人より申聞有之承り置

私妻儀東京親類共^江無拋用事御座候^江付

去月廿八日差遣申候処用弁相洛昨夕帰着

仕候此段御届申上候以上

45才

三月廿五日 宮尾門三郎

一、右同人宅^江親類女客老人四五日逗留之旨届有之承り置

三月廿六日 辰 雨

一、トシタク^ニ付出局無之

三月廿七日 巳 曇

一、高嶋省三郎左之願書差出候^ニ付則會計戸田少参事^江

及進達候

45ウ

私拝領御長屋裏之方庇并雪隠雨漏難儀

仕候間何卒御序之節御修覆被

仰付被下置候様仕度此段奉願候以上

三月廿七日 高嶋省三郎

同文言 相場三彌

右願書會計戸田少参事^江及進達候旨当人より申聞

有之承り置

一、御藩兵隊之向自今上下御廢止都而戎服相用ひ可申

様御達相成候事

46才

一、藤沢元次郎追々及年来未男子無之^ニ付東京府士族

卒触頭大久保兵九郎殿触下卒野村伊助三男野村

金三郎当未十六才罷成相応之者^ニ付続は無之候得共今

般養子致度依之御内慮伺差出度旨参事^江申込候^ニ付

当役^ニ而役宅^江右金三郎相招人体且実否等得と相糺シ

可申様新倉少属申聞候間高嶋權少属役宅^江藤沢

元次郎同勤前田弥助六右金三郎同道罷越候様前田弥六^江

相達候処無程兩人共罷越候^ニ付伊藤權少属高島權少属

烈(列)席^ニ而面会身元委細^ニ相尋候処先は別条無之^ニ付其

旨^一

新倉少属^江申述候事

三月廿八日 午 曇

46ウ

一、神武天皇遙拝之節大雨^ニ候は一同公庁^江屯集

少雨を見合拝礼可致旨川上大参事被仰聞候間

其旨御藩中^江以廻状相達候

一、来ル四月分官禄常禄共明廿九日御渡相成候旨

會計中沢權大属申聞候間何れも明四時相揃

候様以廻状御藩中^江相達候也

一、澤田敬齋用弁相濟東京より昨夕帰着之旨届申出ル

承り置

一、野本權藏左之御届書数田要人ヲ以差出候間則大参事^江

及進達候事

私儀去年九月下旬より風邪^ニ而引込宮川辨治薬服仕候得

共兎角同篇^ニ付田中玄悦^江無油断療養仕候所今以

耽と不仕近々出勤可仕体無御座候猶又引込日数^ニも

相成候間此段御届申上候以上

三月廿八日

野本權藏

三月廿九日 未 曇

48才

47才

一、兵隊夜廻り今夜迄^ニ而相仕舞候旨司令高木巖

より申聞有之承り置

一、右^ニ付裏御門御鍵明晚より五時限り当役宅^江相納明ケ

六時相下ケ御門開キ致候様小頭林七郎^江相達候事

一 金老朱卜錢百文

監察局紙品料

一 錢五百文

下卒 蠟そく代

右之通受取蠟燭代は小頭^江相渡候事

一、神武天皇御祭典御用掛自今少参事監察營繕^ニ而都而

取扱候様川上大参事被成御達候事

一、久保幸次郎左之願書及進達候旨当人より申聞有之承り置

47ウ

四月朔日 申 晴

一、今朔日

神武天皇御祭典^ニ付 三候大明神御社地^江御幣

榊等御飾付相成御場所四方は角切之内花菱御紋付

紫御幕張之右御場所^ニ引統遙拝所御出来相成

御藩之面々服紗給麻上下着用右之内兵隊之向并^ニ下卒

ハ戎服着用巳之刻一同御社地溜所^江相揃順次嚴重^ニ

致拜礼候右拜礼之節御用掛役々相詰当役何れも

姓名呼出之拜礼畢而其旨大参事^江申上之

夫より一同退散之事

御用掛役々

戸田少参事

佐藤少参事

監察 萩原権大属

同 伊藤権少属

同 高島権少属

同 萩原権少属

同 高澤権少属

以上

拜礼座階順次左之通

二畳目

川上大参事

二畳目

今藏権大参事

戸田少参事

三畳目

佐藤少参事

増田 大属

柴田権大属

中澤権大属

萩原権大属

野島権大属

山口権大属

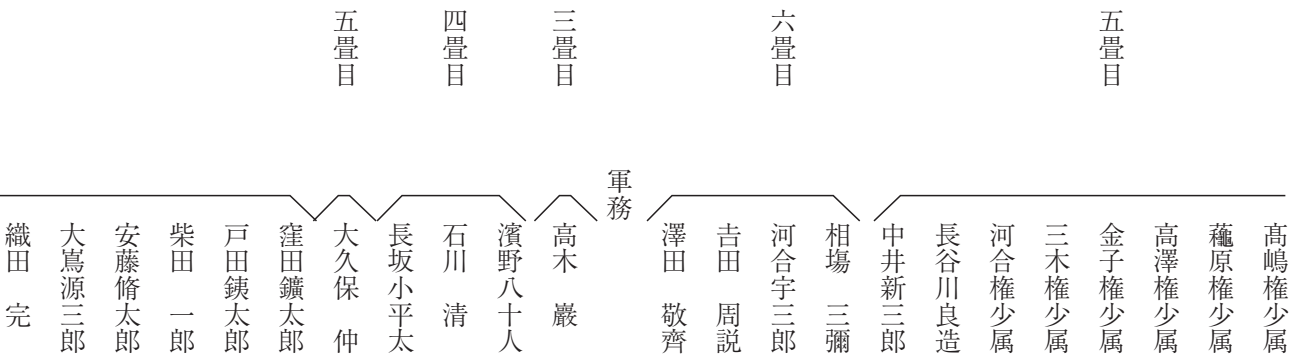
新倉 少属

篠原権少属

伊藤権少属

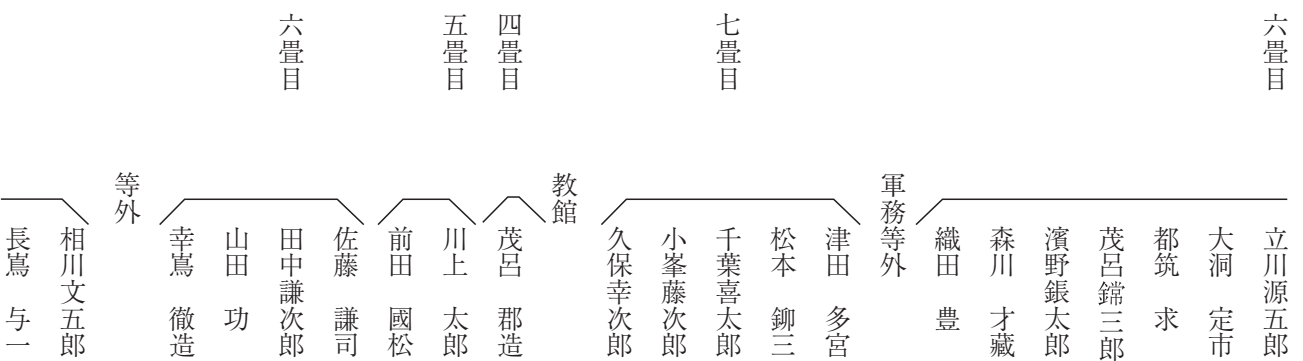
49才

49ウ



50才

50ウ



宮尾門三郎

服中 野本 束

藤澤元次郎

同断 河合覚次郎

前田 彌六

同断 相川徳三郎

小泉 四郎

同断 相川庄九郎

關根 半平

当病不参 大串 新平

篠原 治平

不参 森 兵四郎

手塚 貞藏

御用引 加藤健次郎

野本民次郎

右拜礼無滞相济即刻 御幣神等於
八幡宮御社地^ニ致焼却候都而宮繕方取計之候事

藪田 要人

一、拜礼性(姓)名不参共取調姓名帳今蔵権大参事^江
及進達候

須田鑄次郎

52ウ 一、長坂小平太宅^江親類女客兩人二三日逗留之旨届
申出ル承り置

中川 磯七

52ウ 一、長坂小平太宅^江親類女客兩人二三日逗留之旨届
申出ル承り置

廣沢 勝造

52ウ 一、長坂小平太宅^江親類女客兩人二三日逗留之旨届
申出ル承り置

田中 玄悦

52ウ 一、長坂小平太宅^江親類女客兩人二三日逗留之旨届
申出ル承り置

下卒

四月二日 酉 晴

八畳目

林 七郎

一、茂呂郡造中井新三郎出府願濟^ニ付明朝新太郎
船^江乘込出立之旨兩人共届申出ル承り置

御内家

大井宗十郎

一、御武器倉^ニ有之候当役御預り之古和炮(砲)之筒今日戸田
少参事^江相渡候事

四畳目

山口喜平治

一、御武器倉^ニ有之候当役御預り之古和炮(砲)之筒今日戸田
少参事^江相渡候事

七畳目

堀井 省吾

一、御武器倉^ニ有之候当役御預り之古和炮(砲)之筒今日戸田
少参事^江相渡候事

七畳目

黒川 文平

一、御武器倉^ニ有之候当役御預り之古和炮(砲)之筒今日戸田
少参事^江相渡候事

以上

53才 一、藤澤元次郎左之願書差出候旨当人より申聞有之承り
置

七拾六人

置

養子奉願候覚

私儀段々結構被

仰付冥加至極難有仕合奉存候然ル処追々及
年来」

候得共未男子無御座候_ニ付統は無御座候得共

東京府貫属大久保兵九郎殿触下士族野村伊助

殿三男野村金三郎当未拾六才罷成由緒も御座

候_ニ付養子仕度奉存候此外親類遠縁者共之

内可奉願養子相応之者無御座候_ニ付右金三郎

儀養子被

仰付被下置候様仕度此段奉願候以上

53ウ

明治四辛未年四月二日 藤沢元次郎

印 書判」

大参事

御中

一、左之御書付今藏権大参事被成御渡候間則御藩中_江
以廻章を相達之

監察_江

知事様御儀

御朝集相濟候_ニ付来ル五日東京表御発駕

御道中無御滞候は同日御帰藩被成候

旨彼地より申来候事

54才

辛未四月

右之趣可被相達候

一、来ル五日 知事様御帰藩被成候_ニ付左之役々服紗袷麻

上下着用尤嚮導は戎服用已之刻公庁_江相揃

御着座之恐悦可申上様今藏権大参事被仰聞候間則右

之役々_江以廻状相達候事役々左_ニ記

軍務局 筆頭 嚮導 忝人

当時助教關職_ニ付句読師

明允館 筆頭 助教 忝人

戢兵館 筆頭 準教師 忝人

参事局 筆頭 権少属 忝人

会計局 筆頭 権少属 忝人

監察局 筆頭 権少属 忝人

民政局 筆頭 史生 忝人

筆頭 医員 忝人

筆頭 使部 忝人

筆頭 御内家 忝人

以上

四月三日 戌 晴

一、知事様御召馬今日東京より御藩地_江御廻シ_ニ付

下城元長御馬_江差添着いたし候_ニ付当局_江届申出ル

承り置

55才

一、太政官より之御渡書写忝折今藏権大参事被成御渡

候間則以廻章ヲ御藩中_江相達

四月四日 亥 曇

一、知事様 御朝集濟御帰藩_ニ付而は都而取計向御発駕之節之通

一、御玄関左右_江台張挑灯式_ツ三組飾手桶沓対

一、表御柵御門_江台張挑灯式_ツ三組飾手桶沓対

裏御柵御門_江台張挑灯式_ツ三組飾手桶沓対 但裏御柵御門_江は

菊御紋御高張差

出之

55ウ

一、右差出候様取計方營繕雜事_江相達之

一、表裏御門番并中番共戎服着用候様下卒小頭林七郎_江相達之

一、知事様御帰藩_ニ付而は御当日御玄関戸障子取払御道

筋等為致掃除方は迄は軍務局嚮導_江及案内置

当局_ニ而中番_ニ申付取計来り候処今般より庁掌取計之

事_ニ相究自今右之廉当局関係無之事

一、明五日 御帰藩_ニ付而御用多下卒引足不申候_ニ付下僕之

内忝人御雇相成候様詰番増田大属_江申述置

會計戸田少参事_江○

一、手塚貞藏御修覆願○差出候旨申聞有之承り置

私拝領御長屋表入口戸下流シ裏口庇朽

損難儀仕候間何卒御序之節御修復

被 仰付被下置候仕度此段奉願候以上

56才

四月四日

手塚貞藏

一、太政官より之御布告書写沓折今藏権大参事被成御渡候間則以廻章御藩中_江相達之

四月五日 子 晴

一、昨日参事詰番_江申立置候下僕より御雇之下卒沓人裏御門番人差出候事

一、為見歩使下卒大井宗十郎小林次郎藏差出ス沓人ハ

能見堂迄沓人は町屋村迄罷越候事尤右達方ハ

前日参事詰番より小頭林七郎_江直_ニ相達候事

一、今朝為御迎兵隊之者程ケ(谷脱) 駄迄罷越候事姓名左_ニ記

右参事詰番より申聞有之

相川徳三郎

大洞定市

一、今朝差出置候見歩使小林次郎藏罷帰唯今能見堂

_江御着之旨申聞依之右之趣使部より参事詰番_江申述

夫より詰番差_ニ而其旨局々_江申通置右罷帰り

候見歩使之者_ニ申付御藩中_江高触致サセ候

一、見歩使大井宗十郎罷帰唯今町屋村迄御出之旨申

来ル是又使部より参事局詰番_江其旨申述ル

一、知事様七時頃益御機嫌能被成 御着座候_ニ付局頭

之面々并御内家等服紗裕麻上下着用且嚮導は

戎服着用御玄関_ニ並居 御着座之恐悦申上之今藏

権大参事御取合 御意有之御礼申上之前御同人御取合

順席姓名左之通

57ウ

軍務局 嚮導 筆頭 石川 清
 戢兵館 準教師 筆頭 長坂小平太
 参事局 史生兼庁掌 筆頭 篠原権少属
 監察局 監察刑法 筆頭 伊藤権少属
 會計局 營繕司僕庖厨雜事 筆頭 萩原権少属
 明允館 句読師 筆頭 川上太郎
 民政局 史生一等附属 筆頭 河合宇三郎
 医員 筆頭 吉田周説
 使部 筆頭 藤澤元次郎
 御内家 但御用引之事
 以上

58才

一、知事様益御機嫌能被成御着座候ニ付右恐悦前書
 局頭之面々何れも罷出^{ママ}江^{ママ}罷出申上之
 若殿様^江も同様申上之今蔵権大参事被謁候事
 一、関根鑛司恒岡碩五郎飯田繁三郎坂田胖道中
 無滞御供着いたし候ニ付当局^江届申出ル承り置
 一、関根鑛司恒岡碩五郎飯田繁三郎坂田胖無滞
 御供着之御届且又 知事様益御機嫌能被成御着
 座候御歛申上之 若殿様^江も右御歛申上之依而大参事
 御詰所^江差出ス今蔵権大参事被謁之候事
 一、下卒岡田八太郎無滞御供着致候ニ付小頭林七郎より届
 申出ル承り置
 一、飛脚定日 知事様 御朝集中は東京より十五日

58ウ

六浦より廿九日と昨午年十二月中御達相成居候処今般
 御帰藩後も御定便之日合旧冬御達之通其俣御すへ置
 相成候間其旨一同心得旨今蔵権大参事被仰聞候間則
 御藩中^江以廻章を相達之

四月六日 丑 曇

一、今日トシタクニ付出局無之

四月七日 寅 曇

一、今日遠足調練兵隊之面々罷出候旨司令高木巖より申聞有之

一、今日遠足調練藤沢駅より戸塚駅夫より程ヶ谷駅^江廻り罷帰
 候事」

一、同断ニ付下卒ニ而小頭林七郎平ニ而小林次郎蔵罷出候
 事

59才

三月廿五日

其方姉神奈川県支配所

相州高座郡深谷村百姓

一 見上産(彦カ)兵衛由緒も有之 角田市太郎

候ニ付致縁組度旨願之

通被

仰付之

右於東京宇田権大参事以御書付被仰渡候事

四月八日 卯 曇

59ウ 一、小峯藤次郎左之願書會計戸田少参事^江進達致候旨当人より申聞有之承り置

私拝領御長屋雪隠家根雨漏難儀仕候間
何卒御序之節御修復被 仰付被下置候
様仕度此段奉願候以上

四月八日 小峯藤次郎

四月九日 辰 晴

無記事

四月十日 巳 曇

60才

一、休日^ニ付諸局詰無之

四月十一日 午 晴

一、記ス事無之

四月十二日 未 晴

一、久保幸次良今日拝領御長屋^江引移候旨当人より届申出有之承り置

四月十三日 申 晴

60ウ

一、明十四日中之酉瀬戸明神祭礼^ニ付例之通卒族

御差出被下候様柳田速見願出候間其段御月番

今蔵権大参事^江申出ル前断^ニ付卒族小頭彦人

平^ニ而兩人差出候様前御同人被 仰聞候間其段
小頭^江相達ス

一、臨時休暇以来左之通御取究相成候間則廻章
ヲ以御藩中^江相達ス

休暇日

一 稻荷大明神 二月初午

一 神武天皇 三月十一日

一 瀬戸明神 四月中之酉

一 重継大明神 五月廿一日

一 須賀神社 六月七日

一 昌尹大明神 同月十二日

一 須賀神社 同月十四日

一 秋ノ御祭日 七月十五日

一 信継大明神 八月十九日

一 八幡大神 十一月十五日

一 瀬戸明神 同月中之酉

以上

61ウ

一、明十四日瀬戸明神祭礼^ニ付例之通今夜五ツ時
小頭林七之助（七郎）下僕彦人召連明神境内見廻り候処
別条無之旨罷歸り届申聞候

四月十四日 酉 晴

一、瀬戸明神祭礼^ニ付今日ドンタク

一、明神祭礼^ニ付卒族小頭林七之助（七郎）平^ニ而岡田

八太良小林次郎藏例之通為見廻り罷越候処
別条無之旨罷歸り届申出候

参拝様今藏権大参事被仰聞候間其段以廻章御
藩^江相達候事

一、今夕千葉太直雄名代佐野小平太罷出今日三嶋明神宮
神事無滞相濟候旨且例年之通り卒族御差出被下

四月十六日 亥 晴

62才

難有之旨為御礼監察方役宅^江罷出ル

一、トシタク^ニ付参局無之

一、茂呂郡造中井新三郎用弁済^ニ付昨夜帰着^ニ付今日為御届
御詰所^江可罷出之処トシタク^ニ付御宅廻^ニ而相濟候事

一、今五ツ半時頃 知事様三浦郡名嶋辺^江被遊
御出候旨詰番増田大属被申聞候依之御門番人^江開
門之義申付置

四月十五日 戌 晴

一、山口喜平治腰痛^ニ付今日より引込御届申上候旨御家扶恒置

一、高木巖宅^江女客一人四五日止宿為致候旨届申出
有之承り置

碩五郎申聞有之承り置

一、伊藤喜一郎左之願書差出候間今藏権大参事^江及
進達候

四月十七日 子 昼前雨昼後曇

進達候

63ウ

一、峻量院様御祭日^ニ付御藩之面々清服^ニ而 御家廟^江致
参拝候事

高澤弥三郎娘私縁組仕度此段
奉願候以上

伊藤喜一郎

62ウ

四月十五日

一、高沢弥三郎左之願書同勤手塚貞藏ヲ以差出候間

一、今日 御家廟^江拜礼性(姓)名帳御家廟直掌より
差出候間不参之向取調候上参事詰局^江差出ス

則大参事^江及進達候事

一、山田功左之届書差出候^ニ付及進達候旨職頭佐藤小
参事より被申聞有之承り置

私娘儀伊藤喜一郎^江縁組仕度

私弟省二儀従弟里見直太郎方^ニ

此段奉願候以上

罷在候処被 召出当時陸中

四月十五日

高澤弥三郎

一、明後十七日

国膽澤県少属^ニ被 任候趣

峻量院様御祭^ニ付御藩之面々服紗給麻上下着用

申越候間此段御届申上候以上
四月十七日 山田 功

且兵隊は戎服用朝五時より四時迄^ニ御家廟^江可致

64才

四月十八日 丑 晴

一、高澤弥三郎左之届書同勤手塚貞蔵ヲ以差出候間

則今蔵権大参事^江及進達候

私儀昨十一月中旬より痲症^ニ而引込

宮川弁治薬服用仕候得共兎角

同篇^ニ付澤田敬齊^江軋薬無油断

療養仕候処今以耽と不仕近々出勤

可仕体無御座候猶又引込日数^ニも

相成候間此段御届申上候以上

四月十八日 高澤弥三郎

64ウ

四月十九日 寅 雨

一、伊藤喜一郎高澤弥三郎明廿日平服御用御書付

今蔵権大参事被成御渡候旨詰番増田大属相渡候

間則夫々^江相達候処何れも御請申聞候間其段

前同人^江申述置

伊藤喜一郎

右御用之儀有之間明

廿日四時平服^ニ而参庁有之

候様可被相達候

65才

四月十九日

高澤弥三郎

右御用之儀有之間明廿日

四時平服^ニ而名代老人公

庁^江差出候様可被相達候

四月十九日

一、大(太)政官ヨリ之御書付一折今蔵権大参事被成

御渡候間則以廻状御藩中へ相達ス

65ウ

四月廿日 卯 雨

一、伊藤喜一郎高澤弥三郎名代案原治平罷出

候間其段参事詰番^江申述置無程

御書院二ノ間^ニおいて大参事例(列)座参事

大小属待(侍)座当役出席今蔵権大参事以

御書付被 仰渡之

高澤弥三郎娘其方

一 致縁組度旨願之通 伊藤喜一郎

被 仰付之

66才

其方娘伊藤喜一郎^江

一 為致縁組度旨願之通 高澤弥三郎

被 仰付之 名代案原治平

一、右畢而御礼何れも詰所^江罷出申上之今蔵権大参事

謁之

一、刑法一件^ニ付大参事御宅^江権大参事小参事当局一統

集会致評儀(議)候事其刻伊藤喜一郎不快^ニ付不参

四月廿一日 辰 雨
一、トシタクニ付参局無之

四月廿二日 巳 雨

66ウ
一、伊藤喜一郎左之届書差出候間則今藏権大参事江
及進達候事

高澤弥三郎娘今日引取即日

婚姻相整申候此段御届申上候以上

四月廿二日 伊藤喜一郎

一、高澤弥三郎左之届書同勤手塚貞藏ヲ以差出候

間則今藏権大参事江及進達候事

私娘今日伊藤喜一郎方江差遣即日

婚姻相整申候此段御届申上候以上

四月廿二日 高沢弥三郎

67才
一、御藩中江庚午二月中及廻達置候塗笠提

灯雛形尚又今日及廻達尤雛形之印相用候義は

判任之分庁掌迄腰差ニ而忝人忝張ニ限る

其外之面々は是迄之通り御藩相(合)印相用候事

四月廿三日 午 雨

一、記ス事無之

四月廿四日 未 晴

一、高嶋省三郎宅江親類共客男女兩人一泊為致候旨

届申聞有之
67ウ

四月廿五日 申 雨

一、角田市太郎姉相州高座郡深谷村百姓見上彦

兵衛江先般縁組願濟之上為引移候ニ付送籍江御

調印相願度旨送書差出候間大参事江

御藩印調印相済当局ニ而割印いたし同人江

相渡候事

一、立川源五郎左之願書及進達候旨当人より申聞候

間承り置

私父龍平儀昨年中より時候

相障候ニ付吉田周說薬服

用仕候へ共兎角同篇ニ付

下城元長江転薬無油断

療養仕候処追々疲労

強其上食事進無御座候

昨今難見放容体御座候依之

私義相引看病仕度此段

奉願候以上

四月廿五日 立川源五郎

四月廿六日 酉 雨

一、今日トシタクニ付参局無之

68ウ

四月廿七日 戌 曇

- 一、今日 御奥様御着帯ニ付大少参事丈麻上下着用右恐悦被申上候由為心得今藏権大参事被仰聞候事尤右之趣別段御藩江達無之候
- 一、山口喜平治腰痛快方ニ付明廿八日より出勤之旨御家扶恒岡碩五郎より申聞有之承り置
- 一、野本権藏左之願書野本民次郎を以差出候間則大参事江入御内覽候処御落手相成候間直様調印為致候上尚又今藏権大参事江及進達候

奉願候覚

69才

- 私儀段々結構被 仰付冥加至極難有仕合奉存候然ル処去午年九月下旬より風邪ニ付引込
- 宮川辨治薬服用仕候得共兎角同篇ニ付田中玄悦江転業無油断種々療養仕候得共聡と
- 不仕老衰仕候事故全快之程手間取可申旨医師何レも申聞候依之可相成儀御座候は此上之以

御憐愍隠居被 仰付養子束江如何様ニも跡式被 仰付被下置候様仕度此段偏奉願候以上

明治四辛未年四月 野本権藏 印書判

大参事

御中

69ウ

- 一、佐藤少参事左之御聞置書被差出候旨戸田少参事被申聞候

私妻之里方静岡藩浦野忠一郎祖母并ニ
同人叔母壻人私方江当分逗留ニ差置申度
此段御聞置可被下候以上
四月廿七日 佐藤忠藏

四月廿八日 亥 晴

一、記事無之

四月廿九日 子 曇

70才

- 一、今朝東京江飛脚御定便相立候ニ付為宰領小頭林七郎罷越候事
- 一、来ル五月分家禄官給共明晦日御渡相成候旨會計中沢権大属申聞候間同日四時一同相揃受取候様以廻章御藩中江相達之

四月晦日 丑 晴

一、茂呂次郎太郎左之願書隣家野本民次郎を以

差出候間則會計戸田少参事江及進達候

私拝領御長屋本家雨漏仕并下流シ

大破相成難儀仕候間何卒御序之節御修

復被 仰付被下置候様仕度此段奉

70ウ

願候以上

四月晦日

茂呂次郎太郎

一、向後御扶助^ニ而諸願諸届等差出候者男子之

○隣家之者より

当主有之候ハ、当主之名前^ニ而願届書^〇等差

出之且男子之当主無之婦人のミ^ニ候ハ、隣家

之者名前^ニ而其ものより差出候様取究候事

一 金壹朱ト錢百文

監察局紙品料

一 錢五百文

下卒蠟そく代

71才

右来月分御定用請取候事

一、立川源五郎左之御届書差出候^ニ付及進達候旨同勤

戸田鉄太郎より申聞有之承り置

私父龍平儀病氣之処養生不相叶今午

下尅(刻)死去仕候依之定式之忌服左之通

受申候^レ

忌

五十日

四月晦日より

服

十三ヶ月

未四月より

来申四月迄

右之通御座候此段御届申上候以上

四月晦日

立川源五郎

71ウ

五月朔日 寅 曇

一、今日トシタク^ニ付参局無之

五月二日 卯 晴

一、医員之儀は都而着服以来士族並之通相心得可申

是迄之十徳等は御廃止之旨医員職頭佐藤少参事

^江御達相成候旨詰番柴田権大属申聞之承り置

一、飛脚宰領林七郎今夕東京より戻ル右届申出ル
承り置

五月三日 辰 曇

72才

一、藤沢元次郎明四日平服御用御書付川上大参事被成

御渡候旨詰番新倉少属相達候間則当人^江相達候処

奉畏候旨御請申上候間即刻其段前同人^江申述置

候事

藤沢元次郎

右御用之儀有之間明四日四時平服^ニ而

参庁有之候様可被相達候

五月三日

五月四日 巳 曇

一、藤沢元二郎御用^ニ付罷出候間其段参事詰番

^江申述置無程詰所^ニにおいて川上大参事以

御書付被仰渡候

72ウ

東京府貫属大久保

兵九郎触下士族野村

一 伊助三男野村金三郎

藤澤元二良

義其方致養子度旨

願之通被 仰付之

一、右畢而御請御礼参事詰所^江差出ス

一、明後六日野鳥権大属中井史生相州表^江出役^ニ付

下卒^ニ忝人為警衛差出呉候様山口権大属申聞候

間承り置

73才

五月五日 午 雨

一、菖蒲之御祝儀^ニ付左之役々染帷子麻上下着用

四時参庁御詰所^江罷出右御祝儀申上之

若殿様^江も申上之川上大参事被謁之候

一 参事 詰合

一 民政 同

一 会計 同

一 軍務 之内^ニ而 忝人

一 戦兵館

一 監察 詰合

一 明允館^ニ而 忝人

一 医員^ニ而 忝人

一 使部 詰合

73ウ

一 非役士族^ニ而 忝人

一 非役上祿卒^ニ而 忝人

一 御内家 詰合

以上

右御祝儀申上候節出順左之通り

参事

民政

会計

軍務 之内 明允館 医員

戦兵館 右忝人 右忝人

右忝人

監察

使部

非役士族 非役上祿卒

御内家

右忝人 右忝人

74才

都合八度^ニ罷出申上之候事

一、野嶋権大属山口権大属明朝相州御支配所^江出立致候

^ニ付同人為附属岡田八太郎罷出候旨小頭林七郎届申出ル

承り置

五月六日 未 曇

一、今日トシタク^ニ付出局無之

五月七日 申 曇

一、飯田繁三郎持病^ニ付今日引込御届申上候旨恒岡碩五郎より
申聞有之

一、藤沢元次郎左之御届書進達および候旨当人より申聞

74ウ

有之承り置

私養子東京府貫属大久保兵九郎殿

触下野村伊助三男野村金三郎儀今日

私方^江引取申候此段御届申上候

以上

五月七日

藤澤元次郎

一、野本束明八日御用召御剪紙野本権藏同日平服

御用^ニ付名代忝人差出候様御書付川上大参事殿被成

御渡候旨詰番柴田権大属相達候間則当人共^江相達

候処野本権藏義名代野本民次郎罷出御請申上候

候間其旨詰番柴田権大属^江申述置野本束義は

為御請大参事御詰所^江差出之

75才

御用之儀有之間明八日四時参庁可

有之候以上

五月七日

今藏良治

川上沅^二

野本 束殿

野本権藏

右御用之儀有之間明八日四時平服^ニ而

名代忝人参庁可有之候様可被相達候

五月七日

75ウ

五月八日 酉 雨

一、野本束并野本権藏名代野本民次郎御用^ニ付

罷出候旨申聞候間其段詰番参事^江申述無程御

書院^ニ之之間之振合^ニ而於御詰所^ニ川上大参事以

御書付被仰渡左之通当役出席

養父権藏願之通り

隠居被

一 仰付其方^江家督

野本 束

被 仰付家禄無相違

被下之勤方は迄之通

其方病氣^ニ付願之通

隠居被

一 仰付養子束^江家督

野本権藏

被 仰付家禄無相違

名代 野本民次郎

被下之

右畢而御請御礼として御詰所^江差出之

一、野本権藏名代野本民次郎義は一端(且)退引当人^江

被 仰付之趣申聞候処重畳難有仕合之旨御請御礼

申上候^ニ付直様御詰所^江罷出御受御礼申上之候事

一、関根鑛司安藤修太郎茂呂鐙三郎津田多宮

関根半平野本民次郎何れも続柄之為御礼と

御詰所^江差出之

一、太政官より之御布告書写忝冊川上大参事被成

御渡候間則以廻章御藩中^江相達候

仰付候間野州表御用相濟候は直

東京御邸^江罷越宇田廉平と交代可致候

五月九日 戌 晴

(以下、挿入文書)

一、記事無之

(表書)

高嶋省三郎様

関根鑛司

五月十日 亥 曇

(本文)

77才

一、記事無之

以手紙致啓上候然は

津田多宮義蒙御沙汰

候^ニ付於私も差控之程

奉伺度此段宜御取計

可被成下候以上

十二月十三日

五月十二日 丑 晴

一、飯田繁三郎病氣快方^ニ付明十三日より出勤之旨黒川

(以上)

文平より申聞有之承り置

78才

一、東京大小参事^江自今年始暑寒安否書帖(状)不及

77ウ

五月十三日 寅 晴

御藩中^江相達ス

一、川上澆二殿左之通御間席御差遣(支力)^ニ付於御詰所^ニ

一、今夕森川才蔵^江被仰渡之義有之^ニ付唯今公

御名代今藏権大参事被 相喝(謁) 候旨詰番増田

庁^江名代忝人差出候様御書付川上大参事

大属申聞有之承り置

被成御渡候旨増田大属相渡候間則当人^江相達

候処名代河合覺次郎差出候旨申越ス

森川才蔵

御用有之候^ニ付野州御分庁^江

右申渡儀有之間唯今公庁^江名

出役被 仰付候支度次第早々

代忝人差出候様可被相達候

一 可致出立候且又来ル七月より 川上澆二

十二月迄東京御管(官) 邸詰被

78ウ

五月十三日

一、森川才藏名代河合覺次郎罷出候間其段

増田大属^江申述置無程於参事局大参事

例(列)座増田大属待(侍)座当役出席川上大参事

以御書付被 仰渡候

其方儀酒狂之上

一 心得違之事共有之

森川才藏

候^ニ付非役被

名代 河合覺次郎

仰付之

79才

一、右相济名代之者より当人^江申聞候処奉恐人差

控之程奉伺候旨申出候間其段詰番増田大属^江

申述同人より大参事^江申上候処御聞置相成候旨

申聞候間其旨河合覺次郎^江相達ス

五月十四日 卯 曇

一、下卒大井惣十郎^江申渡義有之間名代之者差

出候様小頭^江相達ス無程名代加藤健次郎小

頭同道^ニ而中之口上江罷出候間萩原権大属

并伊藤権少属出席左之通申渡之

其方義酒狂之上

兎角心得違之義

大井惣十郎

有之^ニ付東京飛脚

名代 加藤健次郎

宰領一順申付之

一、右相济候後小頭始一同^江も呵置

一、佐藤小参事御用向^ニ付野州御分庁^江出役被 仰付之此旨川上大参事殿御口

達^ニ而御達^ニ

相成候旨詰番申聞有之承り置

一、大串新平明十五日御用召御剪紙金子恆五郎同

同(日)平服御用御書付川上大参事被成御渡候旨詰番

柴田権大属相渡候間則当人共^江相達ス大串

新平義は為御請御詰所^江差出ス金子恆五郎

儀は御請申聞候間其段詰番前同人^江申述置

五月十五日 辰 雨

80才

一、今日御用之面々罷出候間其段参事詰番^江申

述置無程於御書院^ニ

御直^ニ被 仰含畢而御請御礼御詰所^江差出ス

任権少属可為倉

一 廩庖厨雜事関

大串新平

係

一、金子恆五郎義は参事詰所^ニおいて川上

大参事以御書付被仰渡候畢而御請前同所^江

差出之

一 予備兵隊被

金子恆五郎

仰付之

一、立川源五郎忌 御免被 仰出候旨為心得詰番

より申聞有之右^ニ付御礼詰所^江可差出之処御

引後^ニ付御宅廻り^ニ而相济

五月十六日 巳 晴

一、森川才藏差控不及其儀^ニ旨被仰出候旨今藏

権大参事被 仰聞候間其段当人^江相達右^ニ付

為御礼詰所^江可差出之処休日^ニ付御宅廻り^ニ而

相濟候事

五月十七日 午 曇

一、大久保仲窪田鑛太郎都筑求左之願書及

進達候旨何れも当人より申聞有之承り置

私拝領御長屋入口壁破落并同所勝手

之方雨漏難儀仕候間何卒御序之節御

修復被 仰付被下置候様仕度此段奉

願候以上

五月十七日 大久保 仲 印

私拝領御長屋庇谷合并廁家根数ケ

所雨漏致難儀仕候間何卒御序之

節御修復被 仰付被下置候様

仕度此段奉願候以上

五月十七日 窪田鑛太郎 印

私拝領御長屋厠根太落難儀仕候間

何卒御序之節御修復被

仰付被下置候様仕度此段奉願候以上

五月十七日 都筑 求 印

82才 一、高澤弥三郎左之願書同勤閑根半平を以差出候間

萩原権大属より右願書川上大参事^江入内覽

御内慮伺候処御落手相成直様差出候様御差図

有之候間則為致調印猶亦前御同人^江及進達候

奉願候覚

私儀結構被 召抱其上段々結構被

仰付冥加至極難有仕合奉存候然ル処去午

年十一月中旬より癩症^ニ付引込宮川辨治

薬服用仕候得共兎角同篇^ニ付沢田敬斎

^江転薬無油断療養仕候得共聡と不仕

老衰仕候事故全快之程手間取可申旨

医師何レも申聞候依之可相成儀^ニ御

座候は此上之以

御憐愍隠居被 仰付悴彌十郎^江

如何様^ニも跡式被 仰付被下置候様

仕度此段偏奉願候以上

明治四辛未年五月十七日 高澤彌三郎

印書判

大参事

御中

83才 一、自今参事より御藩印請取候節は銘々以印書

請取候様詰番参事より達有之候事

五月十八日 未 雨

一、高澤弥十郎明十九日御用召御剪紙壺通并

高沢弥三郎同日平服御用御書付壺通今蔵

権大参事被成御渡候旨詰番新倉小属被渡候

間則当人共^江相達又弥十郎義は為御請詰所^江

差出之弥三郎義は奉畏候旨御請申越且又

名代手塚貞蔵差出候旨申越候間其段前

同人^江申述置候

83ウ

御用之儀有之間明十九日四時

参庁可被有之候以上

五月十八日

今蔵良治

川上澆二

高沢弥十郎殿

高沢弥三郎

右御用之義有之間明十九日四時

平服^二而名代老人参庁有之候様

可被相達候

84才

五月十九日 申 風晴

一、高澤弥十郎并高沢弥三郎名代手塚貞蔵罷

出候旨申聞候間其段詰番参事^江申述無程御書院

二之間之御振合^二而於御詰所今蔵権大参事以

御書付被 仰渡左之通り当役出席

父弥三郎願之通隠居被

一 仰付其方^江家督被

高澤彌十郎

仰付家祿無相違被下之

勤方は迄之通

84ウ

其方病氣^二付願之通

隠居被

一 仰付悴彌十郎^江家

高澤彌三郎

督被 仰付家祿

無相違被下之

右畢而御請御礼として御詰所^江差出ス

一、高沢弥三郎名代手塚貞蔵義は一応退引当人^江

被 仰付之趣申聞候処重畳難有仕合之旨御請

御礼申上^二付御詰所^江罷出御受御礼申上候事

一、都筑求統柄之為御礼御詰所^江差出ス

85才

五月廿日 酉 晴

一、川上大参事佐藤少参事御用向^二付野州御分庁^江

今暁出立被致候事

一、明廿一日

三候大明神御祭祀今年より御内家御手限^二而

被成御祭典候事右^二付御藩之面々染帷子麻

上下且兵隊は戎服用朝第八字より第十字

85ウ

迄ニ 御宮江参拜可致旨且又同断ニ付左之
役々前同服着用四時相揃 御神事済恐悦
可申上旨今蔵権大参事被 仰聞候間例之通
相達ス

諸局 詰合

軍務之内ニ而 老人
戦兵館

明允館ニ而 老人

医員ニ而 老人

非役士族 老人

同上禄卒ニ而 老人

以上

86ウ

則例之通り相達ス

五月廿二日 亥 曇

一、三公（侯）大明神御神酒并御供物参事詰所より
当役請取御書院二ノ間江居置左之役々頂戴いたし
畢而御札御詰所江罷出申上之今蔵権大参事被 謁候事

諸局 詰合

軍務局ニ而 老人

戦兵館

明允館ニ而 老人

非役士族 老人

非役上禄卒 老人

甲 医員 老人

以上

87才

86才

五月廿一日 戌 曇

一、三侯大明神御祭礼無御滞被為済候ニ付昨日

相達置候面々今四時相揃御神事済之恐悦

何れも詰所江罷出申上之今蔵権大参事被

謁候

一、三侯大明神参拜姓名帳御内家より差出候

間不参等取調参事詰番江差出之

一、明廿二日

三侯大明神御神酒供物被下置候間七節句之通り

四時平服ニ而罷出候様今蔵権大参事被 仰聞候間

87ウ

五月廿二日 亥 曇

一、三公（侯）大明神御神酒并御供物参事詰所より
当役請取御書院二ノ間江居置左之役々頂戴いたし
畢而御札御詰所江罷出申上之今蔵権大参事被 謁候事

諸局 詰合

軍務局ニ而 老人

戦兵館

明允館ニ而 老人

非役士族 老人

非役上禄卒 老人

甲 医員 老人

以上

五月廿三日 子 曇

一、無記事

五月廿四日 丑 曇

一、無記事

五月廿五日 寅 曇

一、新倉少属左之願書差出候処御附札济相成旨
当人より申聞有之候

私養女三味線稽古

為仕度此段奉願候以上

御附札

五月廿五日

新倉新

可為願之通候尤

朝廷御祭日并

御手前御祭日は

稽古見合可被申候

88才

五月廿六日 卯 晴

一、休日^ニ付諸局詰無之

一、今昼後より山口権大属并河合宇三郎相州

表^江出役^ニ付下卒老人差出呉候様申聞有

之候間小林次郎藏罷出候様小頭^江相達ス

五月廿七日 辰 晴

一、毎月晦日官祿常祿御渡之節是迄代印^ニ而

請取候向も有之候へ共以來病氣之外代印

不相成且当病^ニ候ハ、翌日罷出而請取候而も

不苦旨戸田少参事殿被仰聞候間則以廻章

88ウ

一、御藩中^江相達ス

五月廿八日 巳 晴

一、明廿九日東京^江飛脚被差立候^ニ付為宰領下卒大井

宗十郎罷出候旨小頭林七郎より申聞有之承り置

五月廿九日 午 晴

一、明晦日六月分家祿官祿共御渡相成候間五半時

相揃請取候様御藩中^江相達ス

五月晦日 未 晴

89才

一、来月分御定用附出し請取申候

廿八日附落

一、刑部省千葉建部当地^江出張洲崎村東屋^江止泊当御藩役員之内何れ

成共致面会度旨町屋村役人ヲ以今夕尅(刻)申越候^ニ付当局關根鑛 司高嶋

省三郎罷越致面会候処東京芝中門前伊兵衛店寅次郎忞彦松と

申者屢悪行有之当所模(最)寄^立廻候哉^ニも相聞へ候^ニ付探索召捕

として出張之由右^ニ付前件彦松様子柄等当藩^ニ而聞込有之候哉尚得と

遂探索呉候様同人ヨリ申聞有之仍両人立歸右之趣今藏権大参事^江

申上ル且御同人より民政^江御達^ニ而夫々遂搜索候事

六月朔日 申 朝雨昼後より晴

一、今日トシタク^ニ付出局無之

89ウ

六月二日酉 晴

一、津田多宮癩^ニ付今日より引込御届申上候旨同勤

松本鋤三より申聞有之承り置

一、去月廿九日出立之飛脚戻ル宰領大井宗十郎罷歸り候旨小頭

林七郎届

申聞承り置

六月三日 戌 晴

一、今日土用入ニ付御藩之面々明日より三日之内ニ四時参庁 御機嫌相伺候様今藏権大参事殿

被 仰聞候間其旨以廻章相達ス

90才 一、織田豊左之願書差出候処即刻御附札ヲ以

可為願之通旨被 仰出候由石川清申聞候間承置

私養方姉東京馬喰町ニ罷在候

山本弥三良母儀大病ニ付存生之内

対面致度旨飛脚ヲ以告越候間

罷越対面仕度依之可相成義御座候

ハ、往返七日立帰御暇被下置候様

仕度此段奉願候以上

六月三日 織田 豊

一、野嶋思磨今日より子守女老人差置候旨申聞有之 承り置

90ウ

六月四日 亥 晴

一、昨三日暑入ニ付今日御藩御内家之面々一統四ツ時

相揃御詰所江罷出奉伺 御機嫌候事同断

若殿江も相伺候事

但シ御詰所江差出候差引順左ニ記

参事

民政

会計

軍務

嚮導

常備共

予備

教館

戦兵館

明允館共 館掌

医員

使部

非役士族 非役上禄卒

91才

御内家

監察

但シ差引ニ付

後順江罷出候事

右之通り十度ニ罷出候事

六月五日 子 晴

一、關根半平暑中為窺御機嫌御詰所江差出ス

一、野本東左之御届書及進達候旨申聞有之

承り置

私養母并養方之養女ハナ儀東京親類共

迄無拋用事御座候ニ付今晝差遣申候

此段御届申上候以上

六月五日 野本 東

91ウ

一、伏見二品宮様随從之臣中村巨公庁御玄関江罷出

候処庁掌篠原多一他出ニ付大参事御差図ニ依而

関根鑛司罷出致面会候処中村巨申述候ニは

今度 二品宮様東京より横濱港江御忍ニ而御出

夫より横須賀江御越且当所并江之嶋鎌倉最寄

御一覽可被成御支度之由然ル処右随從之内途中

92才

より俄ニ不快之もの有之依而駕籠用意可致心得
之処何分急速差支候ニ付御藩江折入而借用致度之旨
尤表向随従之者とハ申候得共全は

宮様御不快ニ付差向御乗物差支候ニ付無拋借用

之儀被成御頼候之旨右同人申聞候ニ付其段委細鑛司より

今藏権大参事江申上候処至極御尤之義早速御駕

籠御貸可相成候間其旨御使者江御答可及様今藏殿

被仰聞ニ付猶又右之趣御使者之仁江鑛司より演舌および

御駕籠早速御貸相成候事

一、明七日例年之通三分村須賀神社祭礼ニ付下卒兩人

御差出被下候様村方より其筋願出候ニ付依而下卒差出方

取計候様今藏権大参事被仰聞候よし詰番新倉

少属申聞候間則其旨下卒小頭林七郎江相達候

92ウ

六月七日 寅 朝雨昼後より晴夜雨

一、今日三分村須賀神社祭礼ニ付諸局臨時トシタク

一、須賀神社祭礼ニ付村方之者一同江公庁より御酒三樽

被下之表御柵御門開門御同所内において

知事様御内覧村々之もの何れも升形内において

被下之御酒頂戴之役々出席左之通

大参事

少参事

参事関係之大属

民政

93才

會計
監察

以上

一、一同右頂戴畢而名主より御礼申上何れも退散之事

一、右祭礼ニ付下卒小頭林七郎平ニ而岡田八太郎為見廻り

昼四半時頃より罷出無滞相濟候旨今夜八時半時頃罷歸り届

申聞候事

一、中村巨今午之刻頃公庁御玄関江罷出候ニ付関根

鑛司罷出致面会候処昨日借用之御駕籠返却

いたし候旨急場御差支之処早速用弁相成忝之旨

口上申述依之関根鑛司江為御肴料金百疋御目

録被下之候右之段鑛司より萩原権大属江頂戴之

有無如何可仕哉申述候ニ付萩原より今藏殿江相同

候処其俣頂戴仕可然之旨被仰聞候ニ付右御使者之仁江

御礼宜御取結被仰上可被下之旨申述之候事

六月八日 卯 晴

一、河合脩左之御届書及進達候同勤萩原文友より

申聞有之承り置

94才

私悴宇三郎儀去ル五日内用有之候趣ニ而

相州鎌倉郡本郷小管(菅)谷村百姓福松方江

罷越候処翌日ニ至帰宅不仕候間右福松

方江使差出候処同人方江は罷越不申趣

申聞候ニ付心当り所々探索周旋仕候得共
何分行衛不相知全出奔仕候儀と奉存候
此段御届申上候以上

辛未六月八日 河合 脩

右ニ付河合修義差控相伺候旨同勤を以職頭迄申述候ニ付
則大参事江申上置候旨會計中沢権大属より申聞有之
承り置

94ウ 一、兄河合宇三郎致出奔候ニ付河合寛次郎同勤を以

差控相伺候旨職頭迄申述候ニ付職頭より大参事江
申上候処差控其儀不及旨被 仰出候よし寛次郎
同勤安藤修太郎より申聞有之依為御礼御詰所江
可差出之処諸局退引後ニ付御礼御宅廻りニ而相済
候事

六月九日 辰 雨

一、今朝河合脩差控不及其儀旨被 仰出候旨會計
中沢権大属より申聞有之右ニ付為御礼修義御詰
所江差出之候

一、中井新三郎暑中為何御機嫌御詰所江差出之

95才

六月十日 巳 晴

一、明後十二日 三侯大明神御祭礼ニ付御藩之面々
染帷子麻上下着用且兵隊は戎服着用朝
五ツ時より四ツ時迄ニ 御宮江参拝可致事

一、右ニ付御藩之面々前同服用用四時参庁御神

事済恐悦可申上旨同断ニ付一統江御赤飯被下置
候旨今藏権大参事被仰聞候間其段廻章
を以相達ス

一、大(太) 政官より之御触書壹折前御同人被成御渡候
間是又以廻章相達ス

95ウ

六月十一日 午 晴

一、休日ニ付諸局詰無之
一、織田豊東京より今夕帰着之旨石川清ヲ以
届申聞有之

六月十二日 未 晴

一、津田多宮瘧快方ニ付明十三日より出勤之旨同勤松本柳三より申聞有之承り置

一、三侯大明神御祭礼ニ付御藩之面々一統
染帷子麻上下着用兵隊は戎服着用四時
参庁御神事済之恐悦詰所江罷出申上之

96才 一、前断ニ付一統江御赤飯被下置候間局々ニおいて頂
戴之畢而御礼詰所へ罷出申上之

若殿様ニも同様申上之

一、織田豊左之御届書石川清ヲ以差出候間承り置

東京

馬喰町

山本弥三郎

養方姉 母

右姉儀久々病氣之処養女不相叶

昨十一日卯上刻死去仕候段唯今

告越申候依之而定式之忌服左之通

忌 廿日 六月十一日より

七月朔日迄

服 九十日 六月十一日より

九月十二日迄

右之通り御座候処今十一日承知仕候ニ付

残日数忌服請申候此段御届申上候

以上

六月十二日

織田 豊

一、織田完同断御届書安藤修太郎ヲ以差出候間承置

同文言之内

父養方伯母

織田 完

97才 一、須田鑄次郎同断御届書森川才藏ヲ以差出候間

萩原唯作より今蔵権大参事江及進達候

同文言之内

父養方伯母

一、大(太) 政官より之御触書壹折今蔵権大参事被成

御渡候間則以廻章相達ス

六月十三日 申 晴

一、三侯大明神御神酒供物左之役々御書院ニノ間ニ用々おいて

頂戴之畢而御礼何れも詰所江罷出申上之

諸局 詰合

軍務之内 忝人

戦兵館

明允館ニ而 忝人

医員 忝人

非役士族 忝人

同上禄卒 忝人

右之通り

一、三侯大明神自拝帳御内家ヨリ差出候間不参

取調候上参事詰番江差出之

一、三侯大明神御神酒御供物一統頂戴畢而右御三方

当役持参事詰番江差出候事

一、今朝裏御門外西柱ニ左之訴訟壹封張附有之候趣ニ而

御門番卒大井惣十郎持参ニ付萩原権大属より右訴訟

封俣今蔵権大参事江差出候事

98才

御支配所

相州大住郡根坂間村

愁訴内蜜(密) 歎願書 百姓

六浦御藩 小前

民政

御役所

御直覽

此願書

民政御役所^江御直覽御進達可被下候

先般野嶋様山口様長持村御廻村之

節同村田中八左衛門門扉^江張訴仕候処

御直覽^ニ相成不申哉何之響も無之

尚又今般愁訴仕候万一押隠し

内見等致し候族有之は急度御恨^ミ

可申候

右之通り下紙^ニ認有之候事

一、明十四日三分村須賀神祭礼^ニ付下卒兩人御差出被下候様

村方より其筋^江願出候^ニ付依而下卒差出方取計候様

今藏権大参事被 仰聞候由詰番増田大属申聞候間

則其旨下卒小頭林七郎^江相達候

一、今日白州相立候^ニ付下卒兩人差出候様民政野嶋権

大属申聞候間則小頭林七郎^江相達ス

一、裏御門^ニ張有之菊之御紋付御幕破損^ニ付為御修復

會計中澤権大属^江差出ス

六月十四日 酉 晴

一、今日休日^ニ付何れも出局無之

一、長谷川良造幸寫徹造手塚貞藏廣沢勝造明

十五日御用召御書付剪紙今藏権大参事被成

御渡候旨柴田権大属相渡候間則当人共^江相達

御請之儀は御宅廻り之事

御用之儀有之候間明

十五日四時参庁可被有之候

以上

長谷川良造殿

今藏良治

同文言之内可有之候

今藏良治

幸嶋徹造殿

100才

同文言

今藏良治

手塚貞藏殿

廣澤勝造

右御用之義有之間明

十五日四時参庁可有之候以上

六月十四日

六月十五日 戌 晴

一、三木榮瘡^ニ付今日より引込御届申上候旨高沢弥十郎より申聞有之承置

一、今日御用之面々罷出候^ニ付其段参事詰番^江申

述置無程於御書院御直被 仰含左之通り

一 任権少属参事

長谷川良造

史生如旧兼庁掌

100才

99才

一 任史生一等附属 幸嶋徹造

可為民政關係

101才

一 予備兵隊被 手塚貞藏

仰付之

一、廣澤勝造儀は於參事局今藏權大參事以御書付被 仰渡候

一 御門衛被 仰付之 廣澤勝造

一、右畢而御請御礼何レも詰所^江差出之今藏權大參事 被謁之候

一、窪田鑛太郎松本柳三義は手塚貞藏結構被

仰付候^ニ付続柄之為御礼御詰所^江差出ス前同人被 謁候

一、昨夕大工四人東京より菊次郎方へ相越候旨宮繕 高澤弥十郎より申聞有之承り置

101ウ

一、廣沢勝造御門衛被 仰付候^ニ付今一日見習明日ヨリ 本番相勤且四人^ニ而耄人ツ、四番^ニ相勤候様野本 民次郎へ相達置

六月十六日 亥 晴

一、今日ドンタク

六月十七日 子 晴

六月十八日 丑 晴

一、須田鑄次郎忌 御免被 仰出候旨今藏權大參事

被仰聞候間其段以手紙相達ス

一、織田完織田豊須田鑄次郎忌

御免被 仰出候旨^ニ而罷出候間為御礼詰所^江差出ス

102才

一、大(太)政官ヨリ之御触書耄折今藏權大參事被成 御渡候間其段以廻章相達ス

六月十九日 寅 晴

一、来ル廿九日東京御定便之処御都合^ニ付廿六日御掾(繰)上ケ

相成候旨今藏權大參事被 仰聞候旨詰番増田大属

申聞有之候間則以廻章御藩^江相達ス

十八日淺

○御藩内

一、監察局^ニ而以來○戸籍(籍)掛り被 仰付候旨今藏權大參 事

御口達相成候間一統御請申上候事

102ウ

一、御支配所^{寺前}谷津村百姓^{加藤}源藏悪事之所業 有之候^ニ付今日召捕入牢申附候旨民政山口権大属 より申聞有之承り置

六月廿日 卯 晴

一、明朝東京^江飛脚被差立候^ニ付宰領大井宗十郎罷越

候旨小頭林七郎より届有之承り置

一、下卒之者夫々御用出払候^ニ付明日之処御門番^江

下僕より上ケ人壹人差出方詰番柴田権大属^江申述
置候事

103才

去十五日附落

一、左之願書関根鑛司より今藏権大参事^江及
進達候処御落手相成

神奈川県御支配所

相州三浦郡

堀内村百姓

小峯松次郎

姉

右松次郎姉私倅文友^江縁組

仕度此段奉願候以上

六月十五日

萩原唯作

103ウ

一、来廿六日東京^江飛脚可被差立之処御用都合^二付
尚又御定之通り廿九日被差立候趣以廻章相達ス

十、左之御書付今藏権大参事被成御渡候間則以

廻章相達ス

御輿様昨夜戌ノ上刻御安座	御女 ^江 様被成御誕生候依之	来ル廿五日迄御産穢被為成候段	弁當 ^江 御届被 ^江 仰上候右 ^江 付諸届	詰合之面々今日四時平服 ^江 而恐悦	可申候
--------------	---------------------------	----------------	--	------------------------------	-----

監察^江

104才

十、右^江付七節初之通罷出恐悦申上之候

辛未六月廿日
右之趣可被相達候

諸届

筆務

戰兵館之内

明允館

薩真

非役士族

間上祿卒

六月廿一日 辰 晴

104ウ

一、休日^二付何レも出局無之

一、左之御書付壹折今藏権大参事被成御渡候間則
以廻章相達ス

御輿様御事昨夜戌之上刻被成

御流産候依之来ル廿四日迄御流

産穢被為成候段弁官^江御届ケ

被 仰上候事

辛未六月廿一日

右之趣可被相達候

一、知事様御産穢中は公庁^江 御出座不被遊候事

105才
一、右御書付面^二付而は昨廿日御達相成御書付且恐悦
申上候儀御取消シ相成候趣前御同人被 仰聞候間其

段も一同^江相達ス

一、大久保仲宅^江男客老一人二兩日逗留為致候旨同人
届申聞有之承り置

六月廿二日 巳 晴

一、此程之入牢人病氣^ニ付村預ケ申付候旨民政局申聞有之承り置

一、右^ニ付牢場見廻り不及致^ニ旨詰番申聞有之候間卒小頭林七郎申出候事

一、明廿三日

高運（院脱）様御祭日之処御差支^ニ付来七月十七日

演暢院様御祭日之砌御同日御同様御祭典被

遊候旨今藏権大参事殿被 仰聞候間則廻章ヲ以

御藩^江相達ス

六月廿^{三日}廿^日 午 晴

105
ウ

一、

一、高運院様御祭日之処御差支^ニ付来七月十七日^ニ御

延祭^ニ相成候事

六月廿四日 未 曇

一、三木榮不快之処快方^ニ付明日より出勤之御届申上候

旨同勤河合脩ヲ以申聞有之承り置

一、無記事

六月廿五日 未 申 晴

一、高木巖左之願書及進達候旨長坂小平太ヲ以申聞

有之承り置

106
才

私拝領之御長屋玄関敷居并入口

敷居朽損難儀仕候間何卒御序手之

節御修復被 仰付被下置候様仕度

此段奉願候以上

六月廿五日 高木 巖印

一、野本東左之届書式通及進達候旨申聞有之
承り置

私養父権藏妻儀不縁^ニ付熟談之上

致離縁里方攝州西成郡郡西高津村

医師河野隆博方^江差戻候旨養父

申聞候間此段御届申上候以上

六月廿五日 野本 東

106
ウ

私養方養女儀養父権藏不応

心底儀御座候^ニ付実家撰州西

成郡西高津村医師河野隆博

方^江差戻申旨養父権藏申聞候間

此段御届申上候以上

六月廿五日 野本 東

一、東京飛脚宰領大井惣十郎今夕刻帰脚之旨小頭ヲ以
申出有之事

107
才

六月廿六日 未 酉 雨

一、今日トシタク^ニ付出局無之

六月廿七日 酉 戌 曇

一、先頃東京より相越居候大工四人此程罷歸り候旨
當繕高澤弥十郎申聞有之

一、萩原唯作宅_江女客一人逗留為致候段同人届申聞承り置

六月廿八日 戌 亥 晴

一、明廿九日来七月分家禄官給御渡相成候間五ツ半時

107
ウ

相揃受取候様御藩_江廻章ヲ以相達ス

六月廿九日 亥 子 晴

一、太政官より御書付一綴并戸藉(籍)法一冊今藏権大参事殿
被成御渡候間廻章ヲ以御藩_江相達ス

一、野本束養父権藏妻并養女儀今般養父権藏より

致離縁里方撰州西成郡西高津村医師河野

隆博方_江差戻候_二付送藉(籍)_一_江御裏書御調印相願度旨

束より送書差出候間大参事_江及進達候処御裏書

御調印之上御下ケ_二相成候間当局_二而割印之上同人_江相渡ス

右送書之写は戸藉(籍)掛り送藉(籍)帳_二認メ有之候間

略之_一

108
才

七月朔日 丑 丑 晴

一、トシタク_二付参局無_二之

七月二日 丑 寅 晴

一、飯田繁三郎喘息_二付引込之御届申上候段黒川文平
ヲ以申出候間承り置

七月三日 兼 卯 曇

一、佐藏権大参事御用済_二付今夕東京より着角田
市太郎当節大学南校休業中_二付願之上今夕
着則当局より及御届置候事

108
ウ

七月四日 卯 辰 曇

一、高澤彌十郎中暑_二付今日より引込御届申上候旨萩原
文友申聞有之承り置

一、石川清河合修明五日平服御用御書付今藏権大参
事被成御渡候旨詰番相渡候間則当人共_江相達処
何れも御請申聞候間其段前同人_江申述置

石川 清

河合 修

右御用之儀有之間明五日四ツ時

平服_二而参庁有之候様可被相達候

七月四日

109
才

一、角田市太郎昨夕着_二付為伺御機嫌詰所_江差出ス

七月五日 兼 巳 曇

一、石川清河合脩御用_二付罷出候旨申出候間其旨

詰番^江申述無程御書院^二之間之御振合^ニ而於御詰所^ニ
今藏權大參事御書付ヲ以被 仰渡候事

御台所脇御長屋西角

一 三間被下之是迄之

石川 清

御長屋御用^ニ付可差上候

一 御台所脇御長屋式間半
被 下之

河合 脩

109
ウ

右畢而御請御札御詰所^江差出ス

七月六日 卍 午 晴

一、萩原唯作明七日平服御用御書付今藏權大參事

御渡之旨柴田權大属相渡候間其段伊藤

喜一郎より相達ス

七月七日 卍 未 晴 風

一、七夕御祝儀^ニ付左之面々四時参庁御祝義申上之

諸局

詰合

軍務戦兵館^ニ而

一人

明允館

一人

医員

一人

非役士族

一人

同 卒

一人

以上

110
才

一、萩原唯作於御詰所^ニ今藏權大參事以御書
付被 仰渡左之通り

神奈川県支配所

一 相州三浦郡堀内村

萩原唯作

百姓小峯松次郎

姉其方悻文友^江

為致縁組度旨願

之通り被 仰付之

110
ウ

一、右畢而御

七月 八日 兼 申 曇

一、茂呂郡造左之願書及進達候旨当人申聞承り置

私住居罷在候

御家廟勝手之方押入家根雨漏

^三而難儀仕候間何卒御序手之節^ニ

御修復被 仰付被下置候様仕度

此段奉願候以上

七月八日

茂呂郡造印

111
才

七日附落シ

一、石川清左之願書及進達候旨当人申聞有之

承り置

私拝領御長屋西之方^江壹間^ニ

三尺之窓明申度尤御入用之節

は元形^ニ仕差上可申候此段奉願候

以上

七月七日 石川清

111ウ 一、関根半平左之願書差出候間当局より會計

正^江差出候

私拝領御長屋表之方壁落

入口敷居鴨居并戸何れも

及大破難義(儀)仕候間何卒

御序之節御修覆被 仰付被下置候

様仕度此段奉願候以上

七月七日 関根半平

一、萩原唯作左之御届書差出候^ニ付伊藤喜一郎より今歲権大参事^江及進達候事

神奈川県御支配所相州三浦郡

堀内村百姓小岑松次郎姉今日

引取倅文友^江即日婚姻為

相整申候此段御届申

上候以上

七月九日 萩原唯作

七月九日 申^二恭^一 西 大風雨

七月十日 茜^二申^一 戌 風 晴

112才

一、大(太) 政官ヨリ之御触書今藏権大参事被成

御渡候間其旨以廻状例之通り相達ス

一、河合修今日拝領御長屋^江引移候旨^二三木

栄ヲ以申間有之承り置

七月十一日 戌^二申^一 亥 晴

一、今日ドンタク

一、飯田繁三郎病氣全快^ニ付明日より出勤仕候

旨黒川文平届申出候間承り置

一、石川清今日拝領御長屋^江引移候旨届

申出(候)間承り置

112ウ 一、川上大参事御用済^ニ付東京より今夕六時帰着被致候事

七月十二日 戌^二茶^一 子 曇

一、角田市太郎明暁東京^江致出立候^ニ付為御暇乞

大参事御詰所^江差出ス

一、窪田鑛太郎宅^江女客老入止宿為致候旨

届申間有之承り置

一、下卒小頭林七郎^江役金貳百疋被下之

則相達ス

七月十三日 辛^二戌^一 茶 丑 雨

一、佐藤謙司明十四日平服御用御書付大参事

御渡之旨詰番新倉新相渡候間則当人^江

相達候処御請申間候間其段前同人^江申述置

候

佐藤謙司

右御用之儀有之間明十四日

113才

四時平服^ニ而参庁有之候様可被相達候

七月十三日

114ウ

一、高沢弥十郎癩快方^付明

一、明十四日より十五日迄兩日休暇被 仰出候旨今藏権

大参事被仰聞候間則其旨以廻状御藩中^江相達ス

113ウ

尤十六日は御定ドンタク之事

七月十四日 丑 寅 曇

一、佐藤謙司平服御用^ニ付罷出候間其旨詰番参事^江

申述置御書院二之間之御振合^ニ而於御詰所^ニ今藏

権大参事以御書付ヲ被仰渡左之通り

一 石川清跡御長屋

佐藤謙司

式間被下之

右畢而御請御礼として御詰所^江差出ス

114オ

一、高沢弥十郎癩快方^ニ付明十五日より出勤之旨同勤

萩原文友より申聞有之承り置

一、明十五日秋之御祭典^ニ付御藩之面々染帷子麻

上下着用且兵隊は戎服着用朝五時より四時迄^ニ

御家廟^江拝礼いたし候様以廻章を相達之

濱野八十人

篠原多一

高島省三郎

川上太郎

前田國松

115ウ

千葉喜太郎

相川庄九郎

右御用之儀有之間明十五日四時平服^ニ而

参庁有之候様可被相達候

七月十四日

右平服御用御書付今藏権大参事被成御渡候旨

詰番参事相達候間則何れも^江相達候処奉畏候旨

御請申上候間其旨当局より右参事詰番^江申述

置候事

七月十五日 寅 丑 卯 曇

115オ

参拜いたし候事

一、中元之御祝儀^ニ付左之役々染帷子麻上下着用四時

参庁御詰所^江罷出御祝儀申上之

若殿様^江も申上之今藏権大参事被謁之候

一 参事

詰合

一 民政

同

一 會計

同

一 軍 務之内^ニ而 忝人

一 戢兵館

一 監察

詰合

一 明允館^ニ而

忝人

一 医員^ニ而

忝人

右御祝儀申上候節順次左之通

- 一 使部 詰合
 - 一 非役士族^ニ而 忝人
 - 一 非役上禄卒^ニ而 忝人
 - 一 御内家 詰合
- 以上

参事 民政 會計 軍務軍務 之内 明允館 医員 監察

戢兵館 右忝人 右忝人

116才

使部

非役士族 非役上禄卒
右忝人 右忝人

御内家

都合八度^ニ罷出申上候事

一、昨日平服御用御達之面々相揃候^ニ付其旨詰番柴田權

大属^江申述候無程御書院於^ニ之之間大参事列席今藏

権大参事御口達大少属待(侍)座当役出席名披露

御反物料

金 七百匹

一 門弟教授骨折且講釈等

佐藤忠藏

仕候^ニ付被下之

右佐藤少参事義は当役取扱無之事

116ウ

金 五百匹

一 嚮導并劍術準教師

濱野八十人

致兼務候^ニ付被下之

117才

金 百匹

一 生徒手本認候^ニ付被下之

篠原多一

金 三百疋

一 劍術準教師輔致

高寫省三郎

兼務候^ニ付被下之

金 式百匹ツ、

川上太郎

一 御回読^ニ付日々罷出

前田國松

候間被下之

金 百五拾匹ツ、

千葉喜太郎

一 幼稚之者手跡世話骨折

相川庄九郎

候^ニ付被下之

右畢而為御礼御詰所^江差出之

一、長谷川良造倅長谷川武造^江左之通被下候よし

金 百五拾疋

良造倅

一 幼稚之者手跡世話骨折

長谷川武造

候^ニ付被下之

117ウ

金 百匹

良造倅

一 樂手輔相務候^ニ付

長谷川武造

被下之

一、下城元長左之御届書差出候旨澤田敬齋より申聞
有之承り置

私妻儀今卯上尅(刻) 出産男子出生仕候

依之来ル廿一日迄産穢罷成申候此段

御届申上候以上

七月十五日

下城元長

七月十六日 卯辰 兼晴

118才

一、明十七日 演暢院様御祭并

高運院様去月廿三日御祭日之処御日延御祭ニ付

御藩之面々染帷子麻上下着用且兵隊は戎服

着用朝五時より四時迄ニ御家廟江参拝致

候様以廻状を御藩中江相達候

一、今夕刻東京より飛脚至(到) 着之事

七月十七日 庚巳 卯晴

一、高嶋省三郎左之御届書差出候間萩原唯作より

今藏権大参事江及進達候

一、高運院様 演暢院様御祭ニ付御藩之面々

一同御家廟江参拝いたし候事

一、御家廟江参拝礼姓名帳直掌茂呂郡造より

差出候間不参取調候上詰番参事江差出候

一、太政官より之御布造(告) 書写老折今藏権大参事

被成御渡候間則以廻状を御藩中江相達

一、被 仰出之儀有之候ニ付御藩之面々一同平服

ニ而今八時致参庁候様今藏権大参事殿被仰聞

候間則其旨以廻状を御藩中江相達之

一、御藩之面々一統相揃候ニ付其旨詰番参事江申述

無程大参事始一同御書院一ノ間より二之間江順次ニ

並居

知事様御出座御意被 仰出左之通

今般自分儀本官ヲ被免候旨被

仰出候是迄一同出精相勤致大慶候

此上迎も若心得違有之候而は自分

奉職中之不行届ニ相成候ニ付何卒御趣

意ヲ体認イタシ恭順従事有之候様

呉々相頼候

右ニ付大参事より奉畏難有仕合之旨御請御礼被仰上

畢而御退座夫より一同退引之事

119才

一、大少参事正権大属司令并教(嚮) 導之面々居残り

内評有之候事

一、左之御書付今藏権大参事被成御渡候間以廻状御藩

中江相達

一 昨十五日於東京為名代大参事被

召候ニ付宇田廉平参 内候処被免本

官候旨被 仰出候事

辛未七月

詔書写

朕惟フニ更始ノ時ニ際シ内以テ億兆ヲ保安シ
外以テ

外国ト対峙セント欲セハ宜シク名実相ヒ政令ニ
帰セシムベシ

朕曩ニ諸藩版籍奉還ノ議ヲ聴納シ知藩

事ヲ命シ各其職ヲ奉セシム然ルニ数百年因襲

ノ久キ或ハ其名有テ其实挙ラサル者アリ何

ヲ以テ億兆ヲ保安シ万国ト対峙スルヲ得ンヤ

朕深ク之ヲ慨ス依テ今更ニ藩ヲ廢シ県ト為ス

是務テ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無実ノ弊ヲ

除キ政令多岐ノ憂無ラシメントス汝群臣

其 朕意ヲ体セヨ

今般藩ヲ廢シ県ヲ被置候ニ就而は御沙汰

候迄大参事以下是迄之通事務取扱

可致事

月 日 太政官

右ニ付六浦県ト相改候事

一、高嶋省三郎左之御届書差出候間萩原権大属より
及進達候事

私妻儀昨夜亥之刻出産男子出生仕候依之来ル

廿二日迄産穢罷成申候此段御届申上候以上

七月十七日

高嶋省三郎

七月十八日 午 申 棟 晴

有之承り置

私拝領御長屋入口敷居朽損難儀仕候

間何卒御序之節御修復被 仰付被下置

候様仕度此段奉願候以上

七月十八日

柴田相造印

七月十九日 未 申 申 晴

記事無之

七月廿日 申 申 曇

(以下 貼紙)

私父方伯父東京罷在候竜ヶ崎県山本

宗眠儀此節大病之趣ニ付存生之内致対面

度旨以飛脚告越申候可相成儀御座候

は罷越対面仕度依之往返七日立帰

御暇被下置候様仕度此段奉願候以上

七月廿日

中井新三郎

右之願書及進達候旨職頭より申聞有之

承り置

(以上)

121ウ 一、藪田要人左之願書差出候間当局より会計戸田

少参事^江及進達候

私拝領御長屋下流朽損難儀仕候間

御序之節御修復被

仰付被下置候様仕度此段奉願候以上

七月廿日 藪田要人印

七月廿一日 酉 卍 兼 晴

一、今日トシタク^ニ付諸局詰無之

122オ 一、下城元長産穢今日迄^ニ而明廿二日出勤之旨同勤

澤田敬齋より申聞有之承り置

七月廿二日 戌 卍 兼 晴

一、高嶋省三郎産穢今日迄^ニ而明廿三日より出勤

致候^ニ付萩原権大属より大参事^江及御届候事

一、宮川辨治下城達次郎今夕東京より帰着いたし

候^ニ付兩人共届申聞承り置

七月廿三日 亥 戌 卍 晴

122ウ 一、下城達次郎御用済^ニ付昨夕帰着いたし候依之為

御届御詰所^江差出之

一、宮川弁治儀は大属准席^ニ付当役差引無之

候事

但 知事様今般本官被免候^ニ付何れも帰着御届

として御詰所^江罷出候節従前之ことく上々

様益^一

御機嫌能被成御座と申事も無之且大参事^江

之安否^一

等も無之着御届のミ申上候而相済候事

七月廿四日 子 兼 晴

一、無記事

123オ

七月廿五日 丑 子 寅^{（マ）} 晴

一、萩原唯作^江親類男女客三人止泊之旨届有之承り置

七月廿六日 寅 丑 兼 晴

一、今日トシタク^ニ付諸局出仕無之

一、吉田周説左之御届差出候旨同勤下城元長より

申聞有之承り置

私養母儀一昨巳年十一月申奉願東京

親類共方^江差遣置候処当六月

下旬里方奥州守山県桑野忠次郎

方^江罷越病氣之処養生不相叶去ル

十八日卯之中刻死去仕候段昨夜飛脚

ヲ以告越申候依之定式之忌服左之通

請申候

忌 五十日 未七月廿五日より

同九月十五日迄
服 十三ヶ月 未七月より
申七月迄

右之通御座候此段御届申上候以上

七月廿六日 吉田周説

124才

七月廿七日 卯 兼 井 晴

一、太政官民部省より之御触書式通今蔵権

大参事御渡_ニ付以廻章相達ス

一、八朔御祝儀以来申上候_ニ不及旨前御同人被仰聞

云々

一、来廿九日御定便之処御都合_ニ付今晚仕舞_ニ而

被差立候旨増田大属申聞候_ニ付相達ス

一、諸向御道具取調差出候様去巳年中相達

置候処未不差出向も有之右は来月七日迄_ニ

差出候様尤差出候向_ニ而も増減有之候ハ、

124ウ

尚又取調差出候様相達ス

一、森川才藏左之願書須田鑄次郎ヲ以差出候間

今蔵権大参事_江及進達候処即刻御附札相

濟

私伯父東京岩井町_ニ罷在候

山本左七義此節大病之趣

_ニ而存生之内対面致度旨

以飛脚告越申候可相成義

御座候ハ、罷越対面仕度依

之往返七日立帰御暇被下置候

様仕度此段奉願候以上

七月廿七日 森川才藏

125才

一、右願濟_ニ付明朝出立依之為御届詰所_江差出ス

七月廿八日 辰 晴

一、吉田周説左之願届書及進達候旨佐藤小参事

被 申聞候間承り置

私養方弟金次郎儀去ル辰年九月

当地引越被 仰付候節召連罷越

可申処病氣_ニ付東京表親類駒込

吉祥寺前三河屋惣兵衛方_江預置候

処此節快方_ニ付昨廿七日引取申候_ニ付

此段御届申上候以上

七月廿八日 吉田周説

125ウ

一、今日より当局御預り御道具取調相始候事

一、角田市太郎留守宅男客壱人一宿為致候段

届申出有之承り置

七月廿九日 巳 晴

一、明晦日八月分家禄官禄共御渡相成候間

明五ツ半時相揃候様會計中沢八十次相達候間

則以廻章ヲ一統_江相達候事

126才

七月晦日 午 曇

一、都筑求内願_ニ付喇叭方御免為跡役河合
覺次郎_江被 仰付候旨司令高木巖より
申聞有之承り置

一金 壹朱ト銭 百文 監察方紙品料
一 銭 五百文 下卒蠟燭代

右八月分御定用受取候事

126ウ

八月朔日 未 晴

一、森川才藏用弁済_ニ付今夕東京より帰着_ニ付
届申聞

八月二日 申 曇

一、森川才藏昨夜東京より帰着_ニ付為御届御詰
所_江差出之

一、野嶋思磨山口篤明三日相州御支配所_江致出役候_ニ付
下卒耆人差出呉候様申聞有之則小頭七郎_江相達
候

127才

一、佐藤謙司今日拝領御長屋_江引移候旨届申出候
承り置

一、中井新三郎東京用弁済_ニ付今夕帰着いたし候_ニ付
届申聞候承置

八月三日 酉 雨

一、中井新三郎昨夕帰着_ニ付今朝為御届御詰所_江可罷出
之処不快_ニ付職頭を以御届申上候事

八月四日 戌 曇

一、中井新三郎左之御届書差出候旨職頭佐藤少参事
より申聞有之承り置

127ウ

一、高木巖宅_江親類男客老人一両泊為致候旨届申聞有之

龍ヶ崎県

父方伯父

山本宗眠

右宗眠儀久々病氣之処養生不相叶昨

三日暁卯上剋(刻)死去仕候段昨夜以飛脚ヲ

告越申候依之定式之忌服左之通請申候

忌 二十日 八月三日より

服 九十月 八月廿二日迄

同月廿二日迄

十一月四日迄

右之通御座候此段御届申上候

128才

八月四日 中井新三郎

一、織田_豊從右衛門左之願書及進達候旨当人より申聞有之承置

私儀東京親類共_江無拋用向御座候_ニ付罷

越申度依之往返七日立帰御暇被下置候様

可為願之通候 仕度此段奉願候以上

八月四日 織田 豊

- 一、飯田繁三郎喘息ニ付今日より引込御届申上候旨同勤
黒川文平より申聞有之承置

八月五日 亥 曇

128ウ

- 一、織田豊明六日東京江立ニ付為御届御詰所江差出之
- 一、中井新三郎忌中ニは候得共此節御用多ニ付出勤候様
大参事より職頭佐藤少参事江御達相成候旨詰番
参事より申聞有之承り置

- 一、坂田胖左之願書差出候旨当人より申聞有之承り置

私儀東京親類共江無拋用事御座候

ニ付罷越申度依之往返七日立帰御暇

可為願之通候 被下置候様仕度此段奉願候以上

八月五日 坂田 胖

右ニ付同人義明朝致出立候ニ付御届為御暇乞

御詰所江差出之

- 一、立川源五郎宅江親類女客一人一泊為致候旨届申聞有之

八月六日 子 曇

- 一、ドンタクニ付出局無之

八月七日 丑 晴

- 一、御道具帳巻冊出来ニ付伊藤権少属関根

権少属高寫権少属調印之上差出之

一、当局記録(録)類并八幡大神御道具類取調差出之

八月八日 寅 晴

129ウ

- 一、町田三治今般御用ニ付野州表より今夕着之事
- 一、野寫思磨山口篤相州表より今夕帰着之
由

八月九日 卯 曇

- 一、記ス事無之

八月十日 辰 曇

- 一、御内家御道具御取調ニ付高嶋省三郎罷出取調
候様川上大参事被仰聞之旨萩原唯作より
当人江相達候処御請申上之右ニ付当局御用相引
罷出候事

織田豊坂田胖用弁相濟東京より今夕帰着之

- 一、織田豊坂田胖用弁相濟東京より今夕帰着之

旨届申出候間承り置且明日参庁御届可申
上処休暇ニ付御役廻りニ而可然旨相達置候

八月十一日 巳 曇

- 一、休暇ニ付参庁無之

八月十二日 午 曇

一、金子恆五郎瘡ニ付引込之御届申上候旨同勤
手塚貞蔵より申聞有之承り置

一、恆岡碩五郎瘡ニ付引込之御届申上候旨山口
喜平治より申聞有之承り置

一、坂田胖左之御届書差出候旨当人より申聞
有之承り置

130ウ

私次男金弥儀去ル申午年正月

当地引越被 仰付候節召連罷

越可申処病氣ニ付東京表元

戸川主馬助殿御家来磯村雄司方

江預置候処此節快方ニ付一昨十日

引取申候此段御届申上候以上

八月十二日

坂田 胖

八月十三日 未 曇

一、相場三弥忌中ニは候得共御用多ニ付罷出候様

大参事被 仰聞候旨案原多一申聞有之

131才

昨十二日附落

品川県管轄所

東京青山上渋谷村

榎本徳次郎

姉

妻

右姉儀久々病氣之処養生不相叶去ル

二日辰ノ上刻死去仕候段唯今飛脚

ヲ以告越申候依之定式之忌服左之通

忌 廿日 八月二日より

同月廿一日迄

服 九十日 八月二日より

十一月三日迄

右之通御座候処今十二日承知仕候ニ付

残日数忌服請申度此段御届申上候

以上

八月十二日

相場三弥

132才

八月十四日 申 晴

一、釜利谷手子明神於境内ニ今日より相僕（撲）相始監察

民政ニ而取締之ため今朝五時より同所江致出役候

出役名前左之通

監察 萩原権大属

民政 野嶋権大属

同 山口権大属

監察 高嶋権少属

下卒小頭 林 七郎

下卒 大井宗十郎

草り取 式人

132ウ

一、飯田繁三郎喘息快方ニ付明日より出勤之旨同勤

黒川文平より届申聞候承り置

一、今朝釜利谷相僕（撲）

八月十五日 酉 晴

一、於釜利谷^ニ今一日相僕（撲）有之候^ニ付左之役々
九ツ時頃より同所^江出役暮時頃無滞引取申候其
旨川上大参事^江及御届候

133才

出役名前左之通

民政 野寫権大属

同 山口権大属

監察 伊藤権少属

同 関根権少属

下卒小頭

林 七郎

下卒

小林次郎藏

草り取

式人

133ウ

八月十六日 戌 曇

一、休日^ニ付出局不致候事

一、相川庄九郎明十七日御用召御剪紙壹折相川

徳三郎同日平服御用御書付川上大参事被成

御渡候旨詰番新倉少属相渡候間則当人共^江

相達庄九郎義は為御請詰所^江差出ス

御用之儀有之間明十七日

四時参庁可有之候以上

八月十六日

今藏良治

川上澹二

相川庄九郎殿

相川徳三郎

134才

御用之儀有之間明十七日

四時平服^ニ而参庁有之候様

可被相達候

八月十六日

八月十七日 亥 晴

一、関根鑛司左之御届書萩原唯作より及進達候

処御落手相成候

私儀短髪罷成申候此段

御届申上候以上

八月十七日

関根鑛司

一、大久保仲左之御届書差出候旨申聞有之承り置

私儀散髪罷成申候間此段

御届申上候以上

八月十七日

大久保 仲

一、安藤修太郎河合覺次郎左之御届書差出候旨

濱野八十人申聞有之承り置

私儀散髪罷成申候此段御届

申上候以上

135才

八月十七日 安藤修太郎

同文言 河合覺次郎

十六日附落

一、新倉新左之願書差出候旨申聞有之承り置

家名相統奉願候覚

私実父方叔父水村一馬儀病氣差重候

節急養子可奉願処相応之(者脱カ)無御座

候ニ付養生不相叶死去仕候は私より

追而家名相統奉願度旨相願置死

去仕候処右断絶罷在候而は可奉報

御厚恩隙無御座於私も恐入奉存

候然ル処私義由緒も御座候事故相

川徳三郎弟相川庄九郎儀当未ノ

拾七歳罷成候何卒此上之以

御憐愍右庄九郎儀如何様ニも家

名相統被 仰付被下置候様仕度

此段奉願候以上

明治四辛未歳八月 新倉 新

大参事

御中

一、相川徳三良左之願書差出候旨申聞有之承り置

奉願候覚

私弟庄九郎義結構被

召仕冥加至極難有仕合奉存候然ル処

此度新倉新より水村一馬家名相統

奉願候ニ付庄九郎貫請家名相統為

仕度旨右新より申聞候間任其意差

遣申度此段奉願候以上

明治四辛未歳八月 相川徳三郎

大参事

御中

一、相川庄九郎相川徳三良御用ニ付罷出候間其段

参事詰番江申述置無程於詰所ニ川上

大参事以御書付被 仰渡左之通

水村一馬死去之節□

願置且新倉新より願

一 之通其方儀一馬家名 相川庄九郎

相統被 仰付家禄高

三石七斗五升被下之

勤方は迄之通

其方弟庄九郎義水村

一 一馬家名相統為致候 相川徳三郎

ニ付貫請度旨新倉

新より申聞候ニ付差遣

申度旨願之通被仰付之

136才

135ウ

136ウ

137才

137ウ

- 一、右畢而御礼何レも詰所^江差出之
- 一、新倉新左之御届書差出候旨申聞有之承置

相川庄九郎義今般

水村一馬家名相統

被 仰付候^ニ付当分

之内私方^江同居為仕

候此段御届申上候以上

八月十七日

新倉 新

138才

- 一、相川庄九郎水村一馬家名相統被 仰付候^ニ付今日より
定式之忌服可請様川上大参事被成御達候

水村一馬家名相統被

仰付候^ニ付今日より定式之忌服請候様

可被相達候

- 一、右^ニ付左之御届書水村庄九郎差出候旨同勤之者より
申聞有之承り置

水村一馬家名相統被

仰付候^ニ付今日より定式之忌服請候様

被 仰渡候^ニ付左之通

忌 五十日 八月十七日より

十月六日迄

服 十三ヶ月 未八月ヨリ

申八月迄

右之通^ニ御座候此段御届申上候以上

八月十七日

水村庄九郎

139才

- 一、戸田少参事御用向^ニ付今朝東京^江出立被致候事
- 一、町田三治当地御用^江付今朝戸田同道^ニ而出立
致候事

八月十八日 子 曇

- 一、明十九日

三候大明神蔭御祭礼^ニ付一同染帷子麻上下着用○

○且兵隊は戎服着用

朝五時より四時迄^ニ 御宮^江致参拜可申候

- 一、同断^ニ付左之役々前同服着用四時相揃御神事

濟恐悦可申上候

- 一、明後廿日

三候大明神御神酒御供物被下置候間七節句之節

- 之通左之役々平服^ニ而四時相揃候様川上大参事
被仰聞候間則以廻状相達候事

139ウ

一 参事

詰合

一 民政

同

一 會計

同

一 軍 務之内^ニ而

忝人

一 戦兵館

一 監察

詰合

一 明允館^ニ而

忝人

一 医員^ニ而

忝人

140才

一、大参事御演舌書老通被成御渡候間則以廻

章相達ス

演舌之覺

- 一 使部 詰合
- 一 非役士族ニ而 老入
- 一 非役上禄卒ニ而 老入
- 一 御内家 詰合
- 以上

140ウ

今般散髮制服略服脱刀可為
 勝手旨御布告有之候付而は相
 改度面々剃髮之上散髮被成候儀は
 先見合可被申候散髮脱刀いたし
 候上は官員は勿論兵隊非役等
 ニ而も不都合形粧いたし候而は
 平民ト混し自然輕蔑汚辱ヲ
 請候様ニも可相成候制服略服之
 廉は一同ニ被
 仰出候得は先は制服略服ヲ用
 散髮脱刀いたし候ことは相
 当之儀ニも可有之前後熟思
 之上相改可被申候

八月十九日 丑 晴

一、金子恆五郎病氣快方ニ付明日より出勤仕候旨同勤

141才

津田多宮届申出候

一、三候大明神御祭典ニ付今朝五時より四時迄ニ
 一同礼服用参拝致候事右ニ付昨日相達
 置候面々四時相揃御神事済之恐悦詰所江
 罷出申上之

一、三候大明神江参拝帳御内家より差出候間
 取調之上参事詰番江差出ス

八月廿日 寅 曇

141ウ

一、三候大明神御神酒御供物被下置候ニ付七節句ニ
 罷出候面々四時相揃頂戴之畢而御礼何れも
 詰所江罷出申上之

八月廿一日 卯 雨

一、ドンタクニ付出局無之

八月廿二日 辰 曇

一、記事無之

八月廿三日 巳 雨

142才

一、都筑求左之願書及進達候旨当人より申聞有之
 承り置

茂呂郡造相州江劍術為稽古罷越候

節私儀も修業旁同道罷越申度奉存候

其節奉願候得は御暇被下置候様仕
度此段奉願候以上

八月廿三日 都筑 求

一、中井新三郎茂呂錦三郎左之御届書差出候旨
何れも申聞有之承り置

私儀短髪罷成申候此段御届申上候
以上

八月廿三日 中井新三郎

私儀短髪罷成申候此段御届申
上候以上

八月廿三日 茂呂錦三郎

一、大久保仲左之願書差出候旨申聞有之承り置

八月廿四日 午 雨

私拝領御長屋台所根太落

難義仕候間何卒御序之節御修

覆被 仰付被下置候様仕度此段

奉願候以上

八月廿四日 大久保 仲

143
才

一、記事無之

八月廿五日 未 雨

八月廿六日 申 大雨

一、記事無之

八月廿七日 酉 晴

一、記事無之

八月廿八日 戌 晴

一、篠原多一左之御届書差出候旨同勤長谷川良造
より申聞有之承り置

143
ウ

私妻儀昨夜亥之上刻出産女子
出生仕候依之来月四日迄産穢罷成
申候此段御届申上候以上

八月廿八日 篠原多一

一、戸田少参事東京御用済^ニ付今夕帰着被致候事

八月廿九日 亥 曇

一、今日大少参事内寄合有之^ニ付詰無之事

九月朔日 子 晴

一、ドンタク^ニ付出局無之

144
才

九月二日 丑 曇

一、築原多一産穢中^ニは候得共御用多^ニ付

罷出候様大参事御達之趣長谷川良造申

聞有之承り置

九月三日 寅 晴

一、伊藤喜一郎左之御届書萩原唯作より大参事江
及進達候

私妻儀不縁ニ付双方熟談之上

離縁仕里方江差戻申候此段御届

申上候以上

九月三日

伊藤喜一郎

一、高澤弥十郎左之御届書差出候旨萩原文友より
申聞有之承り置

私妹伊藤喜一郎妻儀不縁ニ付

双方熟談之上離縁仕今日私方江

引取申候此段御届申上候以上

九月三日

高澤弥十郎

一、太政官より之御布告式綴今蔵権大参事
被成御渡候間則以廻章相達ス

一、左之御書付壱折前御同人被成御渡候間是又
以廻状相達ス

145才

從五位様御事来ル十日東京表江

御発駕被成候

一、右ニ付前日一同江被成御逢候間

四時平服ニ而可罷出候

監察江

一、御当日一同服紗小袖麻上下着用

暁七時御玄関前江罷出御見立

可申上候

但御途中江為御見立罷出候ニ不及候

一、御発駕前日四時一同平服ニ而詰所江

罷出御暇乞可申上候

一、欽若様 御奥様御事来ル

廿一日東京表江被成御発途候

辛未九月

右之趣可被相達候

九月四日 卯 晴

一、山口篤相州表御用済ニ付今夕帰着之事

一、前同人明五日御用召御剪紙壱通御渡之事

九月五日 辰 晴

146才
一、山口篤御用召ニ付罷出候旨申聞候間其段参
事詰番へ申述置

一、山口喜平治恆岡碩五郎飯田繁三郎堀井

省吾黒川文平坂田胖唯今平服御用

之旨今蔵権大参事被仰聞候旨詰番新倉

新申聞候間其段一同江相達候処何れも御請

申出候間前同人江申述置

一、御用召平服御用之面々於参事局今蔵

権大参事以御書付被 仰渡左之通り

一 免本官

山口 篤

は御内家勤御免非役
被仰付

坂田 胖

146ウ

御家扶被 仰付之今

般御帰京ニ付御供引越

一 被仰付先勤番之心得

ニ而御発駕之節御供可

致候

前同人

147ウ

若殿様御奥様

一 御発駕之節立帰御供

被 仰付之

坂田 胖

是より平服御用

今般御帰京ニ付而は

御供引越被仰付候尤

一 御長屋御都合も有之

候間先勤番之心得ニ而

御発駕之節御供可致候

山口喜平治

ニ付 御三方様御発
駕後は御家従御免

非役被 仰付之

飯田繁三郎
黒川文平

147才

今般御帰京ニ付而は

御供引越被仰付候尤

一 御長屋御都合も有之候間

先勤番之心得ニ而

若殿様 御奥様可致

御供候

恆岡碩五郎

名代 坂田 胖

148才

可致在京候

一 若殿様 御奥様

立帰御供被 仰付之

御三方様御帰京ニ付

一 而は御支度万端御用

向取扱可申候

黒川文平

飯田繁三郎
名代 黒川文平

御内家人員御減ニ付

一 御三方様御発駕之後

堀井省吾

一、右畢而御請御礼何れも詰所江差出ス

新倉 新

柴田相造

148ウ

一、堀井省吾左之願書差出候旨申聞有之承置

九月七日 午 曇

私家族自今神葬祭執行仕度因は祖先
之靈祭等悉皆神祭式ニ相改申度此段奉

可為願之通候

願候以上

九月五日

堀井省吾

九月六日 巳 晴

一、今日休暇ニ付参局無之

一、今藏権大参事左之御達書被成御渡候間則以廻章ヲ
相達之

監察_江

欽若様

御奥様御事御日取替相成来ル十七日東京

表_江御発駕被成候事

未九月

右之趣可被相達候

一、去ル五月十四日下卒大井宗十郎心得違之儀有之

候ニ付慎被 仰付其上東京飛脚幸領五度続相

勤候様申付置候処其後同人義至極改心いたし

万事慎相勤候且幸領三度相勤候ニ付今般跡両度

之処差免シ候旨萩原権大属より小頭林七郎_江

相達候処難有仕合之旨御請申上候依之同人為御札

監察役宅相廻り候事

149ウ

150ウ

一、從五位様明曉 御発駕ニ付左之面々_江程ヶ谷

九月九日 申 雨

一、恆岡碩五郎病氣快方ニ付明八日より出勤いたし候旨

同勤より申聞有之承り置

九月八日 未 晴

一、從五位様明後曉七時御発駕之処御繰替相成明
後十日曉八時と被仰出候旨詰番参事申聞候間其旨

一同_江以廻章ヲ相達之

一、吉田周悦忌御免被 仰出候旨当人より
申聞有之承り置

150才

七日附落

一、山口喜平治

從五位様御発駕御供被 仰付置候処

欽若様 御奥様御発駕之御供相勤候様

被 仰付替相成候事

一、坂田胖

欽若様御奥様御発駕之節御供被

仰付置候処 從五位様御供相勤候様

被仰付替相成 欽若様 御奥様御着

まで在京可致旨被仰付之候事

右為心得増田大属申聞之承り置

駅迄御供被 仰付候旨令官高木巖申聞之
承り置

姓名左ニ記

兵隊

窪田鑛太郎

柴田一郎

安藤修太郎

野本 束

152才

一、明曉 御発駕ニ付御玄関戸障子取払御道筋等
掃除之義都而序掌取計候事

一、重陽之御祝儀ニ付左之役々服紗小袖麻上下着
用四時参庁御詰所江罷出御祝儀申上之今歲

權大参事被謁之

参事

民政

會計

軍務

戰兵館之内ニ而

監察

明允館ニ而

医員ニ而

使部

非役士族ニ而

非役上祿卒ニ而

御内家

以上

152ウ

右御祝儀申上候節順次左之通り

参事

民政

會計

軍務之内

明允館

医員

戰兵館

右老

右老

右老

監察

使部

非役士族 非役上祿卒

御内家

右老 右老

151才

一、九時老番触 九半時式番 八時三番御供揃
御発駕之事

但シ三番触は参事局より申付為触候事

一、同断ニ付表裏御門番并中番共着服相改候様下卒

小頭江相達

一、御玄関左右江台張挑灯壹対三ツ組飾手桶壹対

一、表御柵御門江台張挑灯壹対三組飾手桶壹対

一、裏御柵御門江台張挑灯壹対三組飾手桶壹対

但裏御柵御門江は菊御紋高張差出候事

右取計方宮繕雜事相達候事

151ウ

一、高張挑灯入用大蠟燭拾八挺外ニ小蠟燭五挺臨時
請取候事

一、明曉出立之御供之面々 若殿様江為御暇乞

御詰所江差出

都合八度ニ罷出候事

一、一同当主之面々御用有之候ニ付平服ニ而唯今

可罷出申若差支等有之候ハ、悴名代ニ可差出

候様今藏権大参事被仰聞候間則一同江相達之

無程何れも罷出相揃候間其段詰番参事江

申述御書院一之間より式之間江一同並居大少参

事列座川上大参事御口達今般

從五位様 御帰京ニ付御品々為御遺物被下置候畢而

何れも退引

一、猶又一同平服ニ而御書院一之間より二之間江並居

從五位様 御出座御懇之御意并御酒肴被下置

候旨御直ニ被 仰含川上大参事御取合御礼被仰上

畢而何れも退引

御意書之写

明日出立ニ付而は永々逢候事も有之間

敷随分時候相厭候様專一ニ存候先日

も申候通恭順精勤有之候様致度候

態と酒肴申付候且亦此上一同身分成

行ニヨツテハ手当向も致度致心配候得

共承知之通不如意之勝手向帰京ニ付而

も物入多術計も無之深致心痛候

依之伝来之諸道具ヲ初壳私等致候

得共少分之事且は未取纏り不申追而

154才

委細其趣意等大参事より可申達中々以

存候万分一ニも届申間敷候間一己々々ニ

覚悟有之候様願ハシク候

一、御懇之御意を奉蒙其上御酒肴御遺物等頂戴

仕冥加至極重々難有仕合奉存候旨一同御詰所江罷出

御礼申上之大参事被謁之候事

九月十日 酉 晴

一、今晚八時 從五位様被成御発駕候ニ付一同服紗

小袖麻上下着用参庁御玄関前左右江並居御見

立申上之

一、從五位様益御機嫌能御発駕被為済候ニ付一同

御詰所江罷出御歎申上之 若殿様江も申上之

大参事被謁之候

九月十一日 戌 曇

九月十二日 亥 晴

一、從五位様御儀一昨十日御道中無御滞東京

御邸江被成御着候旨申来候右ニ付今日四時

諸局詰合之面々并七節句ニ罷出候面々平服

ニ而詰所江罷出御歎可申上旨今藏権大参事

被仰聞候間其段以廻章一同江相達ス

一、前文御達ニ付左之役々今四時平服ニ而詰所江

155才

罷出御歛申上之

但若殿様江も同様申上之

参事 詰合

民政 詰合

會計 詰合

軍務 忝人

監察 詰合

明允館 忝人

医員 忝人

使部 忝人

非役士族 忝人

同上禄卒 忝人

御内家 詰合

一、新倉禄三郎去六日於東京免勤番支度次第

可致帰県様被 仰付候旨為心得参事詰番

申聞候

一、堀井省吾忌中ニは候得共御用多ニ付出勤

可致様御達相成候旨当人より申聞有之承置

156才

九月十三日 子 曇

一、明十四日 心珠院様御祭日ニ付第八字より

十字迄ニ一同参拝候様以廻章相達ス

但兵隊は戎服着用之事

九月十四日 丑 曇

一、太政官より之御布告忝通今蔵権大参事

御渡ニ付以廻章一統江相達ス

156ウ

九月十五日 寅 雨

一、明後十七日 御二方様暁七ツ時御発駕中之

口通り裏御門江被為入候ニ付同刻一同着服

相改中之口前江相揃御見立可申上旨今蔵

権大参事被 仰聞候間其段廻状ヲ以一統江

相達ス

九月十六日 卯 雨

一、明十七日暁七時 若殿様 御輿様被成

157才

御発駕候ニ付中番ニ申付高触為致候

御供揃御発駕之事

一、同断ニ付裏御門番中番共着服相改候様下卒小頭

林七郎江相達之

一、御中之口前江台張挑灯忝対三ツ組飾手桶忝対

一、裏御門御柵内江台張挑灯忝対三ツ組飾手桶

忝対

右差出方取計候様營繕雜事江相達之

一、同断ニ付高張挑灯御入用蠟そく臨時雜事より

受取候事

157ウ

一、小頭林七郎明曉御発駕之御供被仰付候旨詰
番茂増田大属申聞□且^(虫)当人より右之段届
申出ル承り置

一、御二方様御発駕^ニ付兵隊之内左之面々程ケ谷
馱迄御供被仰付候旨令官高木巖より申聞
有之承り置

河合覚次郎

都筑 求

茂呂鏑三郎

下城達次郎

一、新倉録三郎今夜四時頃東京より帰着致候^ニ付届

申聞承り置

158才

一、若殿様 御輿様

九月十七日 辰 雨

一、若殿様 御輿様今曉七時御発駕被成候^ニ付

一同服紗小袖麻上下着用且兵隊之面々は戎服

着用参庁御中之口前左右^江並居御見立申上

申上之事

一、一同御詰所^江罷出 御二方様益御機嫌御発駕

被為済候御歎申上之

九月十八日 巳 晴

一、新倉録三郎唯今御用有之旨増田大属相達候間

158ウ

其旨当人^江相達即刻御詰所^ニおいて大参事
御書付を以御達

一 免会計関係

学校館掌

新倉録三郎

右畢而為御礼御請御詰所^江差出之

一、明十九日東京^江飛脚被差立候^ニ付為宰領加藤
健次郎罷出候事

九月十九日 午 晴

159才

一、高木巖宅^江親類男客兩人一兩泊為致候旨

届申聞有之承り置

一、山口喜平治留守宅^江女客一人逗留為致候旨

届申聞有之承り置

九月廿日 未 曇

一、萩原唯作左之御届書及進達候

私悴文友妻儀相州三浦郡堀

内村親類共迄無拋用事御座候

^ニ付昨十九日差遣申候此段御届

申上候以上

九月廿日

萩原唯作

九月廿一日 申 晴

一、従太政官之御布告壹折今歳権大参事

被成御渡候右ニ付士族之面々一同服紗小袖麻
上下着用明廿二日四時参庁恐悦可申上様前
御同人被仰聞候

一、若殿様 御奥様去十八日御道中無御滯東

京御邸江被成御着候旨申来候ニ付諸局詰合之

面々其外七節句ニ罷出候面々明日四時平服ニ而

詰所江罷出恐悦可申上旨是又前御同人被仰聞

候間其段以廻状一同へ相達候

160才

一、河田武平御用向ニ付今夕東京より着致候段

詰番より案内有之候

一、黒川文平東京御用済ニ付今夕帰着之旨届

申出候間其旨当役より今藏権大参事江及

御届候

一、下卒林七郎岡田八太郎前断(段)ニ付今夕

帰着之旨届申出候

九月廿二日 酉 晴

一、天長節ニ付士族之面々一同服紗小袖麻上下

着用今四時相揃詰所江罷出右恐悦申上之川上

大参事被謁之

160ウ

一、前断(段)ニ付一同御祝酒頂戴之御礼前同所江

罷出申上之前同人謁之

奏任官

重肴

三重

代銀拾壹匁

酒壹合五勺

判任官

重肴

二重

代銀八匁

酒壹合五勺

等外之者

重肴

壹重

代銀四匁

酒壹合五勺

以上

右之趣可被相達候

辛未九月

一、若殿様 御奥様去十八日御道中無御滯東京

御邸江被成御着候ニ付□(今カ)日四時諸局詰合之面々

其外七節句ニ罷出候向平服ニ而詰所江罷出恐悦

申上之今藏権大参事謁之

161ウ

一、左之御書付壹通当局より司令官江可相達旨

今藏権大参事被仰聞候間則高木巖江相達

候事

解兵被 仰出候得共於当県は

管内ニ而外国人江对暴举人等

有之歟又は村々江暴賊押込等

急報之節従前之兵隊出張可申

達候依而當分壹人半口并官給
半高被下候事

辛未九月

右之趣可被相達候

162才

一、左之御書付今藏權大參事被成御渡候間則堀井
省吾黒川文平呼出相達候処難有仕合之旨
御札申聞候間其旨前御同人^江申述候

飯田繁三郎

堀井省吾

黒川文平

坂田 胖

御内家無御滞相勤候^ニ付當分

壹人半口被下之

162ウ

九月廿三日 戌 晴

一、相川徳三郎左之届書野本束ヲ以差出候間承置

私妻儀昨申ノ刻出産男子

出生仕候依之来廿八日迄産穢

罷成申候此段御届申上候以上

九月廿三日 相川徳三郎

一、加藤健次郎此程東京^江飛脚為宰領罷越

居候処今夕帰着之旨小頭より届申出有之

一、飯田繁三郎坂田胖東京御用濟^ニ付今夕帰着

之旨届申聞有之承り置

163才

九月廿四日 亥 晴

一、河田武平当表御用濟^ニ付今曉東京^江致出立
候旨詰番より申聞有之

一、飯田繁三郎坂田胖昨夕東京より帰着^ニ付其段
今藏權大參事^江及御届且又此程御達相成居
候御内家無滞相勤候^ニ付當分壹人半口被下候旨
兩人^江相達候処御札申聞候間前御同人^江申述候

九月廿五日 子 晴

一、久保幸次郎左之御届書手塚貞藏ヲ以差出候間
承り置

私妻儀今巳ノ上刻出産女子出生

仕候依之来ル十月朔日迄産穢

罷成申候此段御届申上候以上

九月廿五日 久保幸次郎

163ウ

九月廿六日 丑 晴

九月廿七日 寅 晴

一、長谷川良造御都合^ニ付以来佐伯讓次席大串

新平義も同断^ニ付河合修上席と可相心得旨川

上大參事被仰聞候間其段当人共^江達置

164才

一、相川徳三郎今日迄^ニ而産穢明キ相成候旨同勤
茂呂鑑三郎より届申聞有之承り置

九月廿八日 卯 晴

九月廿九日 辰 晴

一、十月朔日より三月晦日迄下卒五人僕小頭老入

右六人^ニ而毎夜火之廻り致候様大参事衆

御達^ニ付其旨小頭^江相達ス 但為蠟燭代^ケヶ月金式歩

廻り刻限左^ニ記 被下之六人之者是^ラ配分之事

五半時

四半時

九半時

八半時

七半時

右之通り

一、十月分家録(禄)官録(禄)共明晦日四半時御渡相成候旨
會計中沢権大属申聞候間則一同^江以廻章^ヲ相達

九月晦日 巳 晴

一 金壹朱卜錢百文 監察方紙品料

一 錢五百文 卒渡 蠟そく代

右十月分御定用受取候事

165才

一、長谷川良造左之願書差出候旨同勤築原多一より
申聞有之承り置

私儀東京表親類共迄無拋用事
御座候^ニ付往返七日立帰御暇被

下置候様仕度此段奉願候以上

九月晦日 長谷川良造

十月朔日 午 雨

一、今日トシタク^ニ付出局無之

165ウ

一、久保幸次郎産穢今日迄^ニ而明二日より出勤いたし
候旨同勤手塚貞藏より届申聞候承り置

十月二日 未 晴

一、津田多宮左之御届書手塚貞藏^ヲ以差出右同人

申聞有之承り置

私母儀久々病氣之処養生不相叶昨朔日

酉之中剋(刻)死去仕候依之定式之忌服受申

候

忌 五十日 十月朔日より

服 十三ヶ月 十一月廿一日迄

十月二日 申十月より

右之通^ニ御座候此段御届申上候以上

十月二日 津田多宮

166才

一、関根半平同鑛司左之御届書差出候間萩原
権大属より川上大参事^江及進達候

津田多宮

実姉

母

右姉儀久々病氣之処養生不相叶昨朔日

酉之中剋(刻)死去仕候依之定式之忌服左

之通

請申候

忌 二十日

十月朔日より

同月廿日迄

服 九十日

十月朔日ヨリ

申正月二日迄

右之通御座候此段御届申上候以上

十月二日

關根半平

津田多宮

父方伯母

母

右伯母儀久々病氣之処養生不相叶昨朔日酉

之中剋(刻)死去仕候依之定式之忌服左之

通請申

候

忌 廿日

十月朔日ヨリ

同月廿日迄

服 九十日

十月朔日ヨリ

申正月二日迄

右之通御座候此段御届申上候以上

十月二日

關根鑛司

167
才

一、安藤修太郎野本束茂呂鏑三郎左之御届書

及進達候旨同勤窪田鑛太郎より申聞有之

承り置

津田多宮

実父方伯母

母

右伯母儀久々病氣之処養生不相叶

昨夜酉之中剋(刻)死去仕候依之定式半

減之忌服左之通請申候

忌 十日

十月朔日ヨリ

同月十日迄

服 四十五日

十月朔日ヨリ

十一月十六日迄

右之通御座候此段御届申上候以上

十月二日

安藤脩太郎

一 同文言

野本 束

一 同文言

茂呂鏑三郎

十月三日 申 晴

一、増田大属左之願書及進達候旨当人より申聞有之承置

私儀東京表親類共迄無扱用事御座候ニ付

往返七日立帰御暇被下置候様仕度此段奉

可為願之通候

願候以上

168才

一、太政官より之御布告書写老折川上大参事被成
御渡候間則以廻章ヲ一同^江相達之

十月三日

増田 茂

十月四日 酉 晴

一、石川清左之願書差出候旨当人より申聞有之承置

私儀東京親類共迄無扱用事

御座候ニ付往返七日立歸御暇被下

置候様仕度此段奉願候以上

十月四日

石川 清

168ウ

一、今日白洲相立候ニ付下卒式人差出候様野嶋権大属
より申聞有之則下卒小頭^江右之趣相達候事

十月五日 戌 晴

一、石川清出府願濟ニ付明朝出立之旨届申聞承置

十月六日 亥 晴

一、今日トシタクニ付参局無之

十月七日 子 晴

169才

一、増田茂願濟ニ付明朝東京^江致出立候旨申聞有之
承置

十月八日 丑 曇

一、角田市太郎一先帰県可致様於東京宇田権大
参事被仰渡依而今夕帰着之旨届申聞候
則当局より川上大参事^江及御届^ニ候

十月九日 寅 雨

一、今日白洲相立候ニ付例之通り下卒式人差出候様

民政野嶋権大属申聞候則卒小頭^江相達之

一、廣沢勝造風邪ニ付今日より引込之旨同勤

中川礒七を以届申出候則大参事^江及御届

候事

十月十日 卯 晴

一、安藤修太郎野本束茂呂鐙三郎忌今日迄

ニ而明十一日より出勤之旨同勤柴田一郎より

届有之承置

一、野嶋思磨左之御届書差出候旨佐藤少参事

被申聞候承置

私妻儀今卯之上剋(刻) 出産女子出生仕候
依之来ル十六日迄産穢罷成申候此段御届

申上候以上

十月十日

野島思磨

170才

一、今日トシタクニ付参局無之

十月十一日 辰 晴

一、関根鑛司忌中_ニは候得共今日より致出勤候様川上大参事御達_ニ付則其旨同人_江相達候

一、石川清東京表用済_ニ付昨夕帰着之旨今

朝届申聞承り置

170ウ

一、中井新三郎左之願書差出候旨申聞有之承り置

私儀東京表親類共迄無扱用事御座候

_ニ付往返七日立帰御暇被下置候様仕度

可為願之通候

此段奉願候以上

十月十一日

中井新三郎

十月十二日 巳 晴

一、中井新三郎願済_ニ付今朝東京_江致出立候旨佐藤少参事被申聞候承置

一、藤澤元次郎左之御届書及進達候旨同勤前田

171才

弥六より申聞有之承り置

私養子金三郎儀東京親類共迄無扱

用事御座候_ニ付今十二日差遣申候此段

御届申上候以上

十月十二日

藤澤元次郎

一、前知事様御用弁之者より左之旨回達有之

今度市ヶ谷新本村谷町御私邸

被成御上地牛込御門内元御官邸

被成御拝領候事

十月十二日

171ウ

十月十三日 午 曇

一、野嶋思磨産穢中_ニは候得共致出勤候様川上大参事より御達_ニ付則出勤候之旨当人より申聞有之承置

十月十四日 未 雨

一、蒧増田茂東京用弁済_ニ付昨夕帰着之旨申聞有之

承置

願_ニ付御勝手御賄方

并執籌被成

御免候御賄方年来

森 兵四郎

一 出精去ル巳年以來憤発

相川文五郎

御基礎も相立御大慶

長島与一

不過之候此段尚又

厚申達候様被

仰出候

右於参事局川上大参事被仰渡候事

十月十五日 申 曇

一、左之御書付司僕_江御達被成候旨為心得増田茂申聞候

當繕

司僕_江

172ウ

大工

青野菊次郎

十月廿日 丑 曇

右願之通永之暇可被申渡候

十月

十月十六日 酉 雨

一、無記事

一、新倉祿三郎角田市太郎唯今御達之儀有
之旨新倉少属申聞候間其段当人共^江相達
候処奉畏候旨御請申出無程御書院於二ノ間^ニ
大参事列座参事大少属待(侍)座当役出席
川上大参事御口達左之通
(余白)

174才

一、高嶋省三郎新倉祿三郎佐藤謙司唯今

平服御用之旨大参事御達之由詰番新倉

少属申聞候間其段当人共^江相達候処何れも

御請申聞候間其旨前同人^江申述置無程御書院

於二之間川上大参事以御書付被仰渡候

174ウ

一 依願免劍術準教

高嶋省三郎

師輔

一 佐藤謙司跡御長屋

新倉祿三郎

二間被下之

宮川辨治跡御長屋

一 式間被下之是迄之

佐藤謙司

御長屋就御用可差

上候

173ウ

十月十九日 子 曇

一、記事無之

一、今日白洲相立候間下卒兩人差出候様野嶋權大属

申聞有之則小頭^江右之趣相達候事

十月十八日 亥 晴

十月十七日

宮川辨治

以上

家讓請転住仕度此段奉願候

付社家分村佐藤謙司所持之

奉存候然ル処療養都合御座候

私儀御長屋被下置難有仕合

申聞候間承り置

一、宮川辨治左之願書及進達候旨佐藤小参事 被

十月十七日 戌 晴

可為願之通候

御付札

173才

174ウ

於二之間川上大参事以御書付被仰渡候

一 依願免劍術準教

高嶋省三郎

師輔

一 佐藤謙司跡御長屋

新倉祿三郎

二間被下之

宮川辨治跡御長屋

一 式間被下之是迄之

佐藤謙司

御長屋就御用可差

上候

一、相濟何れも御礼詰所^江差出又川上大参事被謁之

175才 一、関根半平忌今日迄^ニ而明日より出勤之旨飯田繁三郎

届申聞候

十月廿一日 寅 晴

一、ドンタク^ニ付出局無之

十月廿二日 卯 晴

一、中澤八十次東京表御用済^ニ付昨夕帰着之旨届申聞有之

十月廿三日 辰 晴

一、今日白洲相立候^ニ付下卒兩人差出候様野嶋権大属申聞有之候間右之趣下卒^江相達候事

一、中井新三郎用弁済^ニ付昨夕帰着之旨届申聞有之承り置

十月廿四日 巳 晴

一、太政(官脱)より御渡御書付写一綴川上大参事殿被成御渡候間廻章ヲ以相達ス

十月廿五日 午 晴

一、記事無之

十月廿六日 未 曇

176才

一、今日トシタク^ニは候得共刑法御用^ニ付当局何れも出局致候事

但野州下永野村乙次郎御仕置伺済^ニ付右申渡下書大参事^江差出候事

一、藤沢元次郎左之御届書差出候旨同勤前田弥六より申聞有之承置

私養子金三郎儀東京表親類共迄

無扱用事御座候^ニ付去ル十二日差遣候

処用弁相済昨夕帰着仕候此段御届

申上候以上

十月廿六日 藤沢元次郎

一、新倉禄三郎佐藤謙司今日拝領御長屋^江引移候旨届申聞候承置

十月廿七日 申 曇

一、今朝東京^江飛脚被差立為宰領小林次郎藏罷越候事

一、長谷川良造東京用弁済^ニ付今夕帰着之旨届有之承り置

十月廿八日 酉 雨

一、忝本御三左之願書小峯藤次郎ヲ以差出候間承置

私儀東京表親類共迄無扱用事

177才

御座候ニ付往返七日立帰御暇被下置

候様仕度此段奉願候以上

十月廿八日

松本鉦三

一、文部省より之御書付壺折川上大参事被成

御渡候間角田市太郎^江相達右^ニ付同人自今

非役と相心得且御支配所内非常之節従前

之兵隊出張御達相成候間其節同人義も出張

可致様右^ニ付以来官祿常備兵隊之官給半高

被下候趣委細同人^江相達置

十月廿九日 戌 晴

一、宇田権大参事御用向^ニ付昨夜東京表より

着被致候旨詰番申聞候

177ウ

一、十一月分年月給今日四半時御渡被成候旨中

沢八十次申聞候間其旨相達置候

一、坂田胖左之願書堀井省吾ヲ以差出候間川上

大参事^江及進達候

私儀東京表親類共迄無抛用事

御座候^ニ付往返七日立帰御暇被下

置候様仕度此段奉願候以上

十月廿九日

坂田 胖

一、松本鉦三坂田胖願濟^ニ付明朝東京^江出立致候旨申聞

有之承り置

178才

十一月朔日 亥 晴

一、去ル廿七日被差遣立候飛脚宰領小林次郎蔵戻り

候旨小頭林七郎より届有之承り置

十一月二日 子 晴

一、太政官より之御布告書写壺折川上大参事

被相渡候間一同^江以廻章ヲ相達候事

一、下卒五人并僕小頭共夜火之廻り致候^ニ付蠟燭代

金貳百匹相渡シ候事

一、中沢八十次高沢弥十郎明三日平服御用御書

付川上大参事被相渡候旨詰番柴田権大属相達

178ウ

候間則当人^江相達候処奉畏候旨御請申上候間其段

詰番柴田^江申述置

中沢八十次

高沢弥十郎

右御用之儀有之間明三日四時平服

^ニ而参庁有之候様可被致相達候

十一月二日

十一月三日 丑 晴

一、中沢八十次高沢弥十郎御用^ニ付罷出候間其

段詰番柴田相造^江申述置無程御書院於二ノ間

川上大参事以御書付申渡之

一 転民政社寺之

中沢八十次

179才

事関係

一 兼民政関係

高澤弥十郎

一、右畢而御請詰所^江差出之

一、大属始被 仰付事之節差引之義伺濟^ニ而自

今役方^ニおいて差引可致様柴田権大属申聞之

一、中澤八十次民政被 仰付候^ニ付而は準席之義御礼

事等^ニ而罷出候節は野嶋思磨上席民政之義

^ニ付而は野寫思磨次席と相心得候様相達候旨

為心得川上大参事被 仰聞候事

179ウ

十一月四日 寅 晴

一、長谷川良造宅^江親類共男女兩人逗留為致候旨

届申出有之

一、角田市太郎宅^江親類共男女兩人逗留為致候旨届有之

十一月五日 卯 晴

一、大参事演舌之義有之^ニ付当局一同九半時

相揃候様御達有之前断^ニ付非役一同是又

八半時罷出候様以廻章相達ス

180才

民政

九半時 會計 一統

監察

教館

八ツ時 兵隊 一統

医員

八半時 使部 一統

非役

180ウ

一、右之面々刻限^ニ御書院^江相揃候処大少参事

例(列)座大属より少属迄出席

今般從 朝廷授産見込之義被 仰出候^ニ付

御達之儀有之

十一月六日 辰 晴

一、今藏権大参事妻并娘壱人東京親類共迄

十一月七日 巳 晴

差遣候旨案内有之

一、伊藤喜一郎宅^江逗留女客壱人有之旨届申

181才

聞有之

十一月八日 午 晴

一、今般判任履歴表編集御規則被 仰出候^ニ付当県

一同右明細書迅速差出候様雛形相添致廻達候事

十一月九日 未 晴

一、宇田権大参事当地御用済ニ付今曉東京江出立
被致候事

181ウ

一、前田弥六風邪ニ付今日より引込御届申上候旨
同勤宮尾門三郎より申聞有之承置

十一月十日 申 晴

一、記事無之

十一月十一日 酉 晴

一、金子恒五郎左之御届書差出シ候旨同勤手塚貞蔵
より申聞有之承り置

私妻儀今卯ノ下剋(刻) 出産女子出生

仕候依之来ル十七日迄産穢罷成

申候此段御届申上候以上

十一月十一日 金子恒五郎

182才

十一月十二日 戌 晴

十一日附落

一、松本鉦三坂田胖去ル朔日東京江致出立候処兼而

願之日限ニ而用弁致兼候ニ付尚又五日之日延願於

東京ニ差出御聞届相成則用弁済ニ付今夕帰着之旨

兩人共委細届申聞ル

一、坂田胖帰着之御届当局より大参事江申上候事

182ウ

十一月十三日 亥 晴

一、来ル十七日大嘗会被為行候ニ付云々同十八日十九日豊之
明り之節会右ニ付重軽服云々御書付忝折川上

大参事被相渡候

一、来ル十七日大嘗会ニ付諸局詰合之面々服紗小袖

麻上下着用四時参庁可致候事

一、例年十五日

八幡宮御祭礼之処御都合ニ付来ル十七日御祭典之事ニ

御繰替相成右ニ付御県一同礼服着用四ツ時

参庁可致右ニ付御赤飯被下候事

一、大嘗会豊之節会被為行候ニ付

十七日 十八日 十九日

右三日御県一同休暇之事

右廉々川上大参事被成御達候間則一同江以廻状

相達候事

183才

十一月十四日 子 晴

一、山口喜平治恒岡碩五郎今般東京引越被

仰付候ニ付御暇相願今夕着之旨届申聞有之

承り置

一、廣沢勝造病氣快方ニ付明十五日より出勤之旨

中川惣助ヲ以届申出候間其段川上大参事江

及御届候

183ウ

十一月十五日 丑 晴

一、今般関八州群馬県を除之外并伊豆国従来之

府県被廢更ニ新府県被置候云々

一、今般廢府県之官員追而 御沙汰候迄新置府

県之知事令参事差図を受ケ従前之庁ニおいて

事務可取扱事云々

右御書付一昨十三日於東京ニ宇田権大参事御呼出シ

ニ而御渡相成候旨則川上大参事御達書類被成御渡候間

例之通リ以廻章を一同^江相達之

一、今般廢県ニ付而は左之御書付川上大参事被成御渡

候間是又一同^江以廻章を相達之御達書左之通リ

(裏表紙 裏)

萩原則嘉

伊藤景員

關根久要

高島勝親

勤役中

(裏表紙)

〔横浜市歴史博物館 主任学芸員〕



慶応4年～明治4年の「日記」全6点（萩原家文書 当館蔵）